都留文科大学 同窓会報

第38号会報

発　行　都留文科大学同窓会事務局
責任者　河端雄一
山梨県都留市田原３-８-１
☎0554-43-4341

同窓會
都留文科大學

同窓の絆を

都留文科大学同窓会会長

柏木　精一

同窓会員の皆様方には、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日頃より本会発展のためにお力添えをいただいておりますことに心より感謝申し上げます。私は、昨年８月の同窓会総会において、３万人を超える同窓会の第16代会長として承認をいただきました。

さて、現在の大学を取り巻く環境は、グローバル化、正規労働の減少、少子高齢化等大変厳しく、大学間競争が展開され、「氷河期から淘汰の時代」にあると言われます。そのような状況の中で、都留大は福田学長を先頭に教員養成の強化、グローバル人材の育成等に取り組まれております。昨年度から教養学部と文学部の２学部制となり、従来の教員免許に加え、数学・理科・特別支援の免許が取得できるようになりました。また、キャリア支援センターや教職支援センターの取組により、教員志望者だけでなく、公務員・企業就職を目指す学生の就職率向上を図っております。

同窓会におきましては、４月20日（土）に「在学生との懇話会」を実施し、県ごとに地域の実情を踏まえた教採対策をしていただきました。５月11日（土）の「模擬面接試験体験会」では、学生による集団討論、模擬授業等に対して、教育長や校長を経験した方が適切なアドバイスをしてくださいました。また、台風15号、19号により甚大な被害に遭われた支部へ支援金を送らせていただきました。

同窓生が世代を越えて繋がる大きな原動力は、支部の活動であります。今年度は、８月31日（土）に栃木県支部が新たに設立されました。設立に至るまで、発起人を中心に支部規約の作成、組織づくり、文書発送、設立総会の準備等、ご苦労いただきました関係各位の皆様に感謝申し上げます。栃木県支部の設立により全国で41支部となりました。支部設立に向けた活動ができる方は、同窓会本部へご連絡ください。本部も支部設立のお手伝いをいたします。

今年度は、神奈川県支部、沖縄県支部、栃木県支部、東京都支部、長野県支部、飛翔の会（神奈川県相模原支部）の各総会に出席させていただきました。どの支部においても、過ごした時代は違えども、下宿や先生方の名前、部活動やアルバイト等の話は都留での懐かしい記憶に繋がり、諸先輩や後輩の大学への熱い思いに触れることができました。懇親会では、学生歌「花のかげ」を出席者全員で声高らかに歌い、都留大及び同窓会の発展を確信しました。

同窓会員は全国47都道府県に在住し、地域や各界で活躍し、全国的なつながりをもっております。是非、支部の活動に参加し、語り合い、支え合い、絆を深めていただきたいと思います。

今後も、同窓会の目的である「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」の実現に尽力いたします。皆様方のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、挨拶といたします。

都留文科大学同窓会役員

役職名		氏名	卒科
名誉会長		福田誠治	学長
会長		柏木精一	S57初
副会長		桐井幸雄	S32初
		杉中康平	S59初
		河端雄一	S63初
		笹本忠彦	S62英
庶務会計		小幡哲明	S56国
		原田裕太	H７初
		鈴木　卓	大学課長補佐
事務局長		渡辺正司	S63初
事務局次長		浜欠亮吉	S39国
		外川正純	S46英
		奥脇美穂	H１初
		小口尚良	S60初
監事		淡野香百合	S39初
		相川洋子	S52英
理事（支部長）	北海道支部長	北田則章	S56英
	青森県支部長	遠藤ゆみ子	S63初
	岩手県支部長	高橋節夫	S56英
	宮城県支部長	坂本忠厚	S59初
	山形県支部長	白林和夫	S60初
	福島県支部長	大竹豊紀	S39初

役職名		氏名	卒科
理事（支部長）	茨城県支部長	長岡省一	S55英
	栃木県支部長	平野見一	S54英
	群馬県支部長	齋木雄造	S52国
	埼玉県支部長	西　敬	S56初
	千葉県支部長	川名和則	S51英
	東京都支部長	松本多加志	S44初
	神奈川県支部長	山田節朗	S45初
	新潟県支部長	池原栄一	S50初
	富山県支部長	城岸　毅	S54初
	石川県支部長	谷内誠一	S50英
	福井県支部長	福田　修	S57初
	山梨県支部長	石井正己	S51初
	長野県支部長	下島一道	S61初
	岐阜県支部長	清水久司	S53国
	静岡県支部長	臼井　泰	S46国
	愛知県支部長	竹内義信	S57初
	三重県支部長	田畑繁行	S53初
	滋賀県支部長	松嶋孝雄	S46初
	京都府支部長	枡谷雄三	S44初
	大阪府支部長	藤田明彦	S57初
	兵庫県支部長	高谷和久	S43初
	奈良県支部長	岡田善英	S45初

役職名		氏名	卒科
理事（支部長）	和歌山県支部長	谷口博保	S51初
	鳥取県支部長	古都英幸	S50英
	島根県支部長	小藤　貢	S44初
	岡山県支部長	原田直樹	S45国
	広島県支部長	小谷桂司	S44初
	徳島県支部長	小倉健司	S53英
	愛媛県支部長	谷川忠孝	S42初
	高知県支部長	前田志郎	S48初
	長崎県支部長	平山繁壽	S44初
	熊本県支部長	永田好文	S47初
	宮崎県支部長	取附義弘	S51初
	鹿児島県支部長	本田武久	S43国
	沖縄県支部長	比嘉正夫	S53英
理事	北海道	加藤佳栄	S55英
	東北ブロック理事	鎌田　清	S47初
	兵庫県	赤穂榮一	S40英
	山梨県	一瀬英治	S46国
		牛山正司	S51初
		笠井正宏	H23院臨床教育
		北川圭吾	H13初
		諏訪桂一	S57国
		古屋宗久	S55初

役職名		氏名	卒科
理事		志村　伸	S58初
		内藤郁夫	S48国
		若林四郎	S31商
		千野文雄	S48英
		仲田俊朗	S50初
		原田孝雄	S63初
		高橋雄二	S60初
顧問		奥秋順作	S31初
		志村武男	S31商
		後藤　敬	S33商
		佐藤唯一	S32初
		佐藤英雄	S38国
		奥石　東	S32初
		山縣永良	S39国
		勝俣武男	S41初
		永田清一	S46国
		千野文雄	S48英
		亀田孝夫	S51英
		原　喜雄	S53初
		加藤一雄	S53初

令和２年２月１日現在

6年を振り返って

都留文科大学学長

福田　誠治

高等教育無償化で、私立大学には70万円を上限に授業料免除が適用されます。これまで、国立大学と公立大学は安定感と授業料の安さがメリットでしたが、これからはこの特徴があまり効果がなくなってきます。

学長に就任する直前は、入試の志願者は3,814人とピーク時の3分の1に落ち込みました。初等教育、国文、英文の3学科だけを取り出すと、2,414人で、ピーク時の5分の1近くにまで減少しました。それをこの5年間で約2割回復させましたが、まだ安心してはいられません。

文科省から改善を指摘されていた社会学科は、高校の科目変更にも対応して、2専攻から4コースへと拡大・改編し地域社会学科としました。ゼミも16種類開講されていますので、今後は地方で起業する人材や、東南アジアの日系企業で活躍する人材などを育成しながら特徴を発揮していきたいと思います。

念願の理系の免許も含めて、学校教育学科では、小学校、特別支援、中学数学、中学理科の免許も取得できます。今課題は、理系の受験生を集めることですが、長年の伝統で、男性教員の道を拡大することに頭を悩ませています。

グローバルな時代には、伝統的な教科書を教える教育から、探究して学ぶ「生徒の学習を支援する」教育へと変わってきています。文科省が学力の3要素というように、「対話的・探究的で深い学び」が求められています。対話的とは、生徒同士の対話も含まれ、探究的とはグループや個人で行う調べ学習が想定されています。深い学びとは、クリティカル・シンキングなど、問題を発見し、必要な手順を整えながらそれを解決していくことになります。このような学びを生徒に促し、条件を整備する教師になるのは並大抵の能力ではすみません。さらに、そのような教師を育てる大学教員は、ずっと時代の先を読んで、学生たちに力を付けていくことになります。今、日本の大学が大きな壁に突き当たっているのは、大学の教員が伝統的な授業から抜け出せないでいることでしょう。

スマホに見るように、生活の中にコンピュータやインターネットが入り込んできています。移動通信が高性能になれば、人間の脳は常にインターネットとコンピュータにつながっているような状態になり、人間の思考もまた拡大されていきます。これは人類が今まで経験したことのない学習環境なのです。これについても、日本の学校も大学も対応できていません。

新しい課題に取り組もうとして、国際教育学科を新設しました。英語は国際共通語と考えて、2年生の後半には希望者全員が北欧諸国の大学に留学し、同時に、学科の先生方は留学生を受け入れて英語で授業をしています。国際バカロレア教育を学び、教育実習も体験します。こうして、グローバルなリーダーを育てられたらと思っています。また、新しい学びが大学全体に広がっていけばよいと願っています。

平成31年度　都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数	No	県名	会員数
1	北海道	613	13	東京都	1293	25	滋賀県	105	37	香川県	151
2	青森県	250	14	神奈川県	1241	26	京都府	245	38	愛媛県	322
3	岩手県	607	15	新潟県	656	27	大阪府	464	39	高知県	87
4	宮城県	575	16	富山県	683	28	兵庫県	832	40	福岡県	219
5	秋田県	255	17	石川県	629	29	奈良県	88	41	佐賀県	80
6	山形県	370	18	福井県	529	30	和歌山県	196	42	長崎県	221
7	福島県	757	19	山梨県	3935	31	鳥取県	163	43	熊本県	193
8	茨城県	474	20	長野県	1231	32	島根県	228	44	大分県	116
9	栃木県	498	21	岐阜県	553	33	岡山県	400	45	宮崎県	154
10	群馬県	395	22	静岡県	1623	34	広島県	485	46	鹿児島県	347
11	埼玉県	564	23	愛知県	1219	35	山口県	161	47	沖縄県	233
12	千葉県	588	24	三重県	397	36	徳島県	434	48	外国・不明等	9,339
										合計	35,198

□ 支部設立済都道府県

令和元年9月1日現在

「生かすことで、生かされる　－フィールドを拓いて学んだこと」

都留文科大学退官教授
比較文化学科
分 田　順 子

都留に着任した1994年当時、大学には東京近郊から小仏峠を越えて通勤する教員がもっぱらだった。勿論電車を乗り継いでのことだが、それゆえ皆、大月での接続が気懸りで、宿舎に泊まるのでもなければ、授業後に学生と、あるいは教員同士で心ゆくまで話し込むというようなことは滅多になかった。

前任地の福岡では、初梅の頃なら同僚と連れ立って近くの酒蔵の蔵開きに出かけていたのにと、私は都留のキャンパス・ライフの味気無さを愚痴った。幼子や高齢の親でもいれば、自分の帰りを待つ家族のもとに急がねばならないと悟るには、ずいぶん時間を要した。しかし、学バスも行かない河口湖に居を定めた私は、長時間の越境通勤を敢えてしてでも大都市居住にメリットをみる多数派に独り抵抗する異分子を気取っていた。

ところが縁もゆかりもない土地での暮らしは、空中楼閣に棲むようなものだった。そこから大学へと張り渡されたタイトロープを行き来する毎日の中で、イギリスに移住した女性についての書物を読んでいると、彼女たちの移住地での displacement とか wintering と表される苦闘にどうしても目が行った。それでもなんとか山梨に根を下ろそうと、都留で日本画を習い、河口湖の庭に蝶々を招き、近くに拓いた畑で学生や隣人と交流し、とあがくうちに学んだことがあった。それはその頃、自分が初めて手に入れつつあった研究上のフィールド「紛争を生き延びた北アイルランドの女性たちの物語」といかにつき合ってゆくかという課題にも応用しうる知見だった。

フィールドは原野とは違う。人の耕したフィールドを訪ねても、それをフィールドワークとは呼べない。しかし、思い定めた場所やテーマに、十分な時間とエネルギーを注ぎ、自分なりの方法で働きかければ、原野はやがてフィールドに変わる。そしてそこに流れる「固有の時」が見えるようになる。河口湖の畑なら、それは自分に染みついた社会を律する時刻や学年歴とは別の、季節の巡りの中で再生を繰り返す生き物の時だった。

私は、フィールドで過ごす時、そこで生起する事態に目を見張り耳を澄ますようになっていた。それは、自分のスケジュールや身辺管理の欲求を棚上げにし、ひたすらフィールドの声に促されて動くということで、フィールドを「拓く」ということばの能動的な響きとは裏腹の「待ちの姿勢」に徹することだった。私はそれを楽しみ、フィールドで日没まで働いた後のお茶は美味かった。都留での四半世紀。そこでこの「もう１つの宇宙」と交信するための足場をいくつか築けた私は幸運だった。そして、その途上で「生かすことで、生かされる」と気づかされたことに深く感謝している。

Homage to TsuruBun

都留文科大学退官教授
英文学科
Hamish Gillies

Nine years seems to have passed inordinately quickly. It seems like yesterday that I made the significant move from Hiroshima to Tsuru, not knowing exactly what was waiting for me there. All I had to go on was my wife's experience of having studied in the English Department at TsuruBun in the 1990s! I must confess I was somewhat daunted by going from a predominantly foreign-colleague work environment to a department where I was the only non-Japanese full-time faculty member. (Fast forward nine years and there are now three of us in the English Department!). However, this 'immersion' experience was made immeasurably easier by the warmth and helpfulness of my new colleagues, and this brings me to the main point of my message: what I will miss most about working in TsuruBun are the people. The Administration Staff, the Teaching Faculty, and of course the Students. The Admin Staff somehow manage a superhuman workload, and yet they have always been so friendly and helpful, even despite my 'unique' Japanese ability! My teaching colleagues, both inside and outside the English Department, have likewise helped make my time at TsuruBun an enjoyable and fulfilling experience. And finally, and arguably most importantly, the students at TsuruBun are what makes this university unique. Coming from all over Japan, they create a truly cosmopolitan and open-hearted atmosphere on campus, and they have been an absolute joy to teach. I would therefore like to say a huge thank-you to all of you. As I move on now to a new institution, part of me will always remain in Tsuru.

退職にあたって

都留文科大学退官教授
国文学科
田 口　麻 奈

本学へは2016年に着任し、ちょうど４年間勤めさせて頂きました。着任時に１年生で、基礎演習などを指導した学生たちが卒業するのと同時の退職となりますので、この先もどこか卒業生にも似た気持で、本学を懐かしく思い出すだろうなと感じています。指導していた学生、ゼミ生の皆さんが母校に遊びにきたとき、教員として出迎えてあげられなくなることはやや寂しく思いますが、本学でこれまで一緒に勉強した皆さん、またこれから入学してくる皆さんの明るい未来を心からお祈りしています。

国文学科では、毎年のゼミ合宿や、泊りがけの「日本文化史演習」などで一緒に旅行に出かける機会も多く、楽しい思い出がたくさんあります。特に、私が担当してきたゼミのメンバーはどの年度も優秀で（ちょっと自慢話めきますが）、彼ら、彼女らと議論を重ねた時間は、本学に勤めた４年間のうち、私にとって１番の財産です。１つの作品をめぐって異なる読み方や評価が存在する時、その隔たりやすれ違いを対話的に、でも誤魔化さずに確認してゆく作業というのは、実のところ日常生活のなかのコミュニケーション能力や思考力と直結しています。そうした困難な作業に真摯に向き合ってきた人は、卒業後どのような職場でも、日本語を繊細にかつ効果的に運用して活躍することができるだろうと思っています。昨今は、大学での専門教育の意味を、安易に就職実績に繋げたがる風潮も強くありますし、それが現実的で成熟した思考だと信じている大学教員もいます。勉強することの意味を大事に考えて入ってきた学生が、大学側から「その勉強したらどこに就職できるの？」というメッセージを受け取った時、いかに傷つけられるものか、私自身の学生時代を振り返ってもよく分かります。僭越ながら本学が、私が見てきた最良の学生たちのように、目の前の学問的課題に全力投球できる学生を祝福する場所であり続けてくれることを切に願います。最後に、在職中にお世話になった先生方、職員の皆さま方に心よりお礼申し上げます。

活躍する同窓生

「職究」教職に生きて
何のためにこの仕事はあるのかと問い続け

内田　卓雄
（昭和47年度　国文学科卒）

…富士山からやがて相模川となって下る桂川に架かるつり橋を渡った頃、夜は白々と明けて…略…山峡の町には暁光が射し込み、つり橋から見える桂川の崖上の谷村駅には小さな電車が入ってくる。…

指導主事向けに毎週発行していた便りの中の「厳寒の砌」と題したエッセイの一節である。谷村や友人たちが瞼に蘇る。活躍する同窓生という標題は、本誌同欄の友人、全国区の書家、安藤豊邨君に委ねよう。

1　異色の教職人生　教育行政15年

現職の終わりは3.11のあった３月。38年間の教職員生活、その間15年は教育行政職だった。教諭は昭和で終わり。平成に入り沼津市教委学校教育課、東部教育事務所教職員課、平成９年には省庁再編前の文部省教育課程企画室に出向。50歳で中学校校長。定年通知をいただいたのは、門前に我が校入口のバス停を置く超地元の母校だった。校長歴はわずか４年。事務所や市教委の学校教育課長等で間抜けの６年を演じ、最終校で沼津市校長会を背負った。激しく働いた行政勤めだった。気がつけば午前０時の毎日。裏方の事務局の宿命だが、組織を支えている自負と醍醐味はあった。

2　教育は何のために　EU 本部で

教職員課最後の平成８年９月１日、県教委から自分で計画し１人で実施する海外研修を命じられてヨーロッパに旅立った。同月６日。私はブラッセルの EU 本部で EU 閣僚会議教育文化青年局長 Alan Forrest 氏と秘書が止めに来るまで熱く語り合っていた。「教育は人間が人間として幸せに生きるために行うもの」。爾来、Nice British のこの言葉を座右に置いた。

3　我が職業を悟る　文部省教育課程企画室で

学習指導要領策定のための教課審の審議テーマは「21世紀を主体的に生きることのできる国民の育成」だった。15歳の20年後30年後はこの国の中堅層。それ故に「子ども」ならぬ「国民」の育成。私たちの仕事は子どもたちをして未来社会を創る使命を帯びていたのだった。自分の職業の意味を悟り、激変する社会を生きる子どもたちを想った。何のためにこの仕事はあるのか。 この問いに、Alan Forrest の理念を置いた。そうして、なぜ、この仕事は自分なのかを問うた。

この文部省勤めの時、近世ゼミの恩師江本裕先生と再会し新橋で痛飲した。実証的に積み上げていくゼミでの学びが、自分の中に流れていることに気づいた。

4　「職縁」の支えと「職究」が拓く退職後

⑴偶さかで一瞬の職縁に支えられ

退職日の翌日から、私は本市が起ち上げた教職員研修センターで、統括研修師範なるこそばゆい職名を背に業務設計や企画運営に携わった。これを全面的に支援してくれたのは、文科省や国研の関係者だった。教職科目の非常勤講師だった共立女子大で私と前後期を組んだのも、すでに研究者として全国的に活躍されていた、かつて同室の企画係長。横浜国大院等で語る機会があるのも文部省の縁。偶さかで一瞬だった文部省勤め。その職縁が退職後まで私を支えてくれていた。

⑵「職究」が退職後を拓く

令和になっても語り続けている。講座を担ったり講話や執筆したりしてきた分野は、情報教育、総合的な学習の時間、教育法規、学校経営・運営、教育課程、学習評価、道徳教育、学校事務と多岐に亘り、現在は某社の小・中学校道徳科教科書の奥付の人にもなっている。だが、それら全てが、たまたま就いた職で、自分が納得できる仕事にすべく「職究」した過程でなしてきたこと。その「職究」が退職後を拓いている。

⑶「黄金の釘」には遠く及ばず

平成30年３月、教育経営構築論を担った常葉大学大学院及び本市研修センター非常勤を最後に完全退職したが、今なお日本カリキュラム学会に所属し学究しつつ、若手育成や指定校の指導、各種の講演講話、執筆等の依頼にも応じる一方、降ってくる職から逃げず、退職校長会や保護司会の活動等にも勤しんでいる。

劫初より造り営む殿堂に吾も黄金の釘一つ打つ

群れず、役職は求めず追わず、逃げずで、自分を律し、職に殉じるように生きてきたが、打ち続けた我が釘は晶子が詠った「黄金の釘」には遠く及ばずで、「はるか道遠し」（毛涯章平）である。微力だった。

http://uchidat.com　Facebook（Takuo　Uchida）

活躍する同窓生

書の道
自詠自書自刻の世界
〝行不由徑〟

書縁會々長
安 藤 重 光（豐邨）
（昭和48年　国文学科卒）

○臨書に没頭した学生時代

一生涯筆を持てる仕事に就きたいと考えていた青衿時代。国語教師になろうと決めた。そんな時目に止まったのは、富士山が大きく写し出された大学案内のパンフレット。中を開くと初代学長が、あの世界に誇る「大漢和辞典」の著者諸橋轍次先生。憧れて更に入学したいという胸の高鳴りを今も覚えている。

入学後、授業では小中学校での現場で役立つ教育書道を受講させて頂いていたが、これだけでは物足りなさを感じ、書道部を見学に行った。そこには週に一度講師の先生が御指導に来られていた。当時まだ30歳代後半であった先生は、書の世界では比較的時間に余裕がおありのようで、私達学生にとっては幸いであった。

図書館で見つけた平凡社刊の明・清時代の鄧石如を臨書してお見せしたところ、「君はこの隷書の書風に向いているよ。」とおっしゃられ、嬉しくなって毎日繰り返し臨書して、先生の御指導を仰いだ。

その後、「鄧石如の学んだものを学びなさい。」と漢代の張遷碑を薦めて下さった。二千年も前のものなので、当然風化しており摩滅の跡など、初心者にとっては難物ではあったが、若さからか形振りかまわず臨書を繰り返しては、朱筆を入れて頂くことが楽しみとなり、幾度も全臨するに及び、漢代隷書の書法に私なりに自信が持てるようになった。

四年生時、山梨県芸術祭で一席を頂ける迄になり、NHK甲府と山梨放送のTV番組にも出演させてもらい、大学四年間で私にとって最も記念すべき出来事となった。

○書作家として自詠自書自刻をめざす

31歳時、中学教職の傍ら、刻字（自分で書した書を自分で板に刻す）に専念し、毎日書道展でグランプリを受賞することが出来、これを機に義務教育の教職を辞し、筆一本の生活へと舵を切った。この時、名古屋の中心地の画廊で初個展を開催し、その時の縁で漢詩の手ほどきを受け、自詠漢詩の世界に入ることとなり、今に至っている。

独立後数年を経て、愛知教育大学から講師の招請があり、十数年勤めさせて頂いたが、若人相手の仕事は、こちらがエネルギーを頂くこととなり、50歳代半ばには、毎日書道展で最高の名誉である文部科学大臣賞を受賞することとなった。これは私の書作家生涯で忘れ得ぬ一ページとなっている。

40歳から書作家として、4、5年に一度のペースで、自分で詠んだ漢詩百首による、書・篆刻・刻字・画の作品を、日本（東京・名古屋・豊田）と中国（南京・北京・済南・西安）で発表して来た。還暦を過ぎた頃、大病を患ったが、幸いにして名医の執刀により、九死に一生を得た。その時の心境を自詠し自書・自刻として、毎日書道展で発表した。

書懐　　懐を書す
作樂至歡當及時。楽を作し歓に至るは当に時に及ぶべし
春秋風月寸心馳。春秋　風月　寸心　馳せる
人生不滿千年壽。人生　千年の寿を　満たさず
應盡交遊酒與詩。応に　交遊を尽すべし　酒と詩と

○行くに徑（こみち）に由らず

本年3月縁あって、諸橋先生の故居を尋ねる機会に恵まれた。そこで目にしたのは、先生の座右の銘〝行不由徑〟（論語雍也篇）である。成る程これは生涯志を貫かれた先生に相応しい言葉であり、私も使わせてもらおうと印に刻して游印として用い、更にこの気持ちで、今後も進んで行こうと思っている。

北京展開幕式（現中国博物館）

安藤豐邨自刻

「第48回の総会を終えました」

北海道支部長　**北 田 則 章**

令和最初の講演会・総会・懇親会は８月３日（土）に札幌市内で開催され、今年も同窓会本部から桐井幸雄（昭和32年度　初等教育卒）副会長のご臨席を賜り、道内各地から24名の会員が参集しました。

講演会では「北海道の教育の裏のウラ」と題して北海道札幌東高等学校の河原範毅（昭和56年度　英文卒）校長からお話をいただきました。30分間という限られた時間でしたが、学校現場と教育行政の双方に勤務された経験の中から、学校と行政で使われる同音異義語の紹介や管理職としての失敗対処法など、興味深いお話を聴くことができました。

総会では、前年度の業務報告、会計・監査報告、今年度の予算案・役員案などが審議され、いずれも原案どおり承認されました。

懇親会では、瑞宝双光章を受章された桐井副会長と瑞宝小綬章を受章された永田英二（昭和39年度　国文卒）様より、支部からお送りした祝電に対する謝辞を含めてご挨拶を頂戴し、続いて出席者全員が在学時の思い出や同期生の近況等を熱く語りました。続く２次会にも12名が参加しました。

今年も桐井様から毎年の総会開催に対してお褒めをいただき、支部設立に東奔西走された初代支部長の日下顧問を始めとする諸先輩方に感謝しつつ、この伝統を継続できたことに執行部一同、安堵しています。

次回の講演会・総会・懇親会は、桐井副会長の出身地である帯広市の「十勝ガーデンズホテル」で、令和２年８月１日（土）に開催します。東京オリンピックの期間中ではありますが、北海道の東部地域で活躍している「桂友会」会員が多数参加してくれるものと確信しています。

＜平成30年度、令和元年度役員＞

支 部 長	北田　則章	（昭和56年度　英文）
副支部長	山本　洋嗣	（昭和55年度　国文）
	中村厚喜夫	（昭和52年度　初等教育）
	長坂　　隼	（昭和36年度　初等教育）
	板東　真一	（昭和55年度　英文）
事務局長	大花　　学	（昭和60年度　国文）
事務局次長	照山　秀一	（平成元年度　英文）
	桜田　　琢	（平成 8 年度　社会）
会　　計	神野　昌代	（平成 4 年度　国文）
会計監査	西多　　弘	（昭和40年度　国文）
	西山　　肇	（昭和40年度　初等教育）
事務局員	金子　　歩	（平成15年度　国文）
	吉田　俊介	（平成24年度　英文）
	赤間　圭城	（平成25年度　国文）
顧　　問	日下　　功	（昭和32年度　初等教育）
	熊谷　　勲	（昭和38年度　国文）
	当銀　誠博	（昭和39年度　国文）
	横山　　勲	（昭和40年度　国文）
本部理事	加藤　佳栄	（昭和55年度　英文）
	北田　則章	（昭和56年度　英文）

結成２年目を迎えて

青森県支部長　**遠藤 ゆみ子**

平成の最後に支部を発足させることができ、令和の初めに本格的に始動しはじめた青森県支部ですが、順調な滑り出しとはなかなかいかず、苦戦しているというのが本音です。大学の同窓会事務局からいただいた名簿を基に、250通余りの会員募集案内を出しましたが、宛名不明で30通以上戻ってきて、最終的に返信が返ってきたのは約70通でした。それでも中には、「設立おめでとう。」「設立を待ちに待っていました。ありがとう。」等のお祝いや感謝のメッセージも寄せられ、たくさんの励ましをいただきました。

その励ましの声を力に変え、令和元年９月21日八戸グランドホテルおいて、第２回総会と懇親会を開催することができました。昨年は９名の参加でしたが、今回はなんと２倍の18名が集まってくださいました。総会では、理事会の報告や支部の活動・会計報告、役員の改選、今後の活動等について承認されました。

懇親会では、多くは教員経験者でしたが、あらゆる方面で活躍なさっている方々もいらっしゃり、様々なお話を伺うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、「都留」という場所で時間（とき）は違えども学生生活を送った人達としてすぐに共通の話題で意気投合し、大学の思い出話に花を咲かせることもできました。

今後は、こうした喜びをより多くの方々と分かち合いたいと思いますので、ぜひ次回の総会からお集まりいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

第16回都留文科大学岩手県同窓会開催

岩手県支部　**小山田　　厚**

２年に１度開催される岩手県同窓会が、令和元年11月９日（土）、ホテルロイヤル盛岡を会場に開催されました。

当日は、前回に引き続き福田学長をお迎えすることができました。そして、前回同様懇親会、２次会へも出席いただきました。前回２次会を終えたのは、午前０時をまわっていたと記憶していましたが、今回はなんとか日が変わる前にホテルへ戻ることができました。福田学長には毎回遅くまでおつきあいいただき、感謝にたえません。

さて、今回の総会をもって支部長を退任することとなりました（後任は髙橋節夫副会長）。在任中は、都留文科大学理事会、学生との懇話会、総会等々、懐かしの都留文科大学へ年数回足を運ぶことができ、また各県の先輩、同級生、後輩たちとお会いでき、お近づきになれたことは何よりの思い出となりました。

鹿児島県の大先輩からは、世話になった岩手の先輩を探してくれとの依頼を受け、探し出すこととなりました。遠く電話ではあったものの、何十年ぶりかの出会いを生み出すことができました。

福井県の同級生とは、理事会で卒業以来の出会いとなりました。岩手県出身で大学の同級生でもあった奥様が逝去されたことを聞き、学生当時の懐かしくも若かりし顔が脳裏に浮かび、胸が締め付けられる思いになったのでした。ご冥福をお祈り申し上げます。

そして、後輩である学生にもお会いすることができました。試験対策の話というよりも、私の教員としての失敗談や自前の教育論をよくぞ真摯に聞いてくれたと感謝しております。学生さんにはいつも「風の又三郎」のメールアドレスをお伝えし、気が向いたなら近況を、と言い残しておりました。幾人かからメールいただきました。ありがとうございます。

奇しくも、福田学長が本年度をもって退任されるとのこと。寂しさを禁じ得ません。失礼ながら２次会で聞く先生の福田節には、多くを学ばせていただきました。

どなたかの言か忘れましたが、福田学長に次の言葉を贈らせていただきます。

「人の成長には秘訣がある。高い目標・高い意識をもった友といかにふれあうか。自身のレベルを上げてくれる高い友がそばにいるか。そして最後に…いかなる『師』に学ぶか、ただそれだけだ。」

宮城県支部の本年度の活動

宮城県支部長　**坂本忠厚**（石巻市立湊小学校校長）

本年度の宮城県支部の活動は、２月２日、仙台市ホテル白萩での支部総会よりスタート。57名の出席で、福田学長を始め、隣県支部からの参加者もあり、盛会に行われた。大学の現況報告や、会員の活動の様子、大学時代に戻り、旧交を温める場となる和やかな雰囲気で進められた。最後は、恒例の、都留大節、武田節、花のかげを肩を組みながら声高らかに歌っている。毎年、２月第１土曜日を定例としている。

５月からは、４回に渡る教員採用試験対策の学習会を、仙台市立八幡小、大郷町文化会館で実施した。都留より参加の現役学生はじめ、約20名が参加。筆記試験、論文、実技、模擬面接、集団討論と、現役の教員を講師に、きめ細かい指導を続けている。６月の大郷鎌田羽生の宿での合宿は夜を徹しての学習、語らいが続いた。今年も中身の濃い研修となり、多くの合格者を出すことができた。受講生として学んだ者が、教壇に立ち、翌年は講師として指導に当たるという好循環がある。また、広く宮城県の教育界のためという視点から、都留大以外の参加も受け入れている。採用後も、同じ教員仲間としての付き合いが継続できるのも魅力の１つである。

８月には、２年に１度、都留（鶴）の恩返しツアーと称し、宮城から大学の同窓会の定期総会に14名が参加。１泊２日のバスの旅。都留の町並みの変化に驚きつつ、懐かしの都留の街探索。現役学生を交えた風来坊での懇親会と楽しい２日間の旅を満喫した。

これ以外にも、教育居酒屋「きままや」での、四季折々の熱い教育討論会や、県支部会会報編集ための銀河高原ビールの集い、有志による都留む（つるむ）会が県内各地で行われ、都留で得た花のつぼみを、宮城の地で精いっぱい開花させようとしている。

今後も、支部として、谷村の郷愁に浸るとともに、共に生きる活力としての宮城県支部の輪を作っていきたい。

栃木県支部設立！「ありがとうございます！」

栃木県支部長　**平野見一**（昭和54年度　英文学科卒）

栃木県、そして全国の同窓生のみなさん、こんにちは。

「ごじゃっぺ」（いい加減、嘘）にならず、遂に「栃木県支部設立！」に至りました。令和元年８月31日が栃木県支部の誕生日となりました。令和のスタートに合わせたかのように、全国41番目の支部として、77名の会員で栃木県支部がその第一歩を踏み出しました。

昨年度の同窓会報第37号で「栃木県の同窓生のみなさん、栃木県支部を設立しませんか！」と呼びかけをさせていただき、関係各位の御理解と御支援を賜り、栃木県支部設立を成し遂げることができました。本当にありがとうございました。

設立総会には、福田学長、柏木同窓会長の御臨席と24名の同窓生の御参加をいただきました。総会後の懇親会も大いに盛り上がり、２次会まで懇親を深めることができました。

同窓会の目的は、「大学の発展への寄与」と「会員相互の親睦」ですが、「会員相互の親睦」を図ることから、無理をせずにゆっくりとスタートしました。今後、栃木県支部の活動が充実発展していくよう、皆様の御理解と御支援を心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、都留文科大学と都留文科大学同窓会のますますの御発展と全国の同窓生の更なる御活躍をお祈りいたしますとともに、栃木県支部設立に向けてお世話になりました関係各位に改めて心から深く感謝申し上げます。

※栃木県支部に新たに加入したい方、興味・関心がある方は、平野まで御連絡ください。

平野　見一　【携　帯】090－4662－1944

【メール】hira 3 ken 3 @hb.tp1.jp

◆役　員◆

支部長　平野　見一

副支部長　柿沼　裕子　　磯　　佳子

監　事　菱沼　孝　　齋藤　初代

事務局長　赤羽　喜代美

※理事については省略させていただきました。

教員採用試験第２次選考に向けた学習会の開催

群馬県支部長　**齋木雄造**

群馬県支部では、本県教員採用試験第２次選考に即応した対策が行えるよう令和元年８月24日（土）に面接試験に向けた学習会を開催しました。

学習会前半の面接指導では、群馬県公立学校教員募集要項の冒頭に示されている「群馬県で求める教員像」を踏まえて、採用する側の意図に立ち、学校教育の喫緊の課題の解決に重点を置いた内容を盛り込むよう配慮しました。

学習会の後半では、本年４月に県内の公立小学校教諭として教職のスタートを切った赤石美歩さん（平成30年度卒業生）を講師に迎え、昨年度の体験にもとづいて面接会場の様子や質問された内容などについて語っていただきました。また、勤務校での取り組みについても語っていただき、当日参加した４名の皆さんにとって大変有意義な機会となりました。都留文科大学で学んでいるという共通の基盤をもった若い人たちが力を合わせて第２次選考に挑もうとしている姿は、何とも頼もしい限りでした。

群馬県支部では、これからも在学生や卒業生の皆さんと手を携えて、さまざまな形で支援や協力の輪を広げていく所存です。どうぞ、ご理解、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

【ご案内】

令和２年度群馬県支部総会・懇親会を開催します。

皆様のご出席を心よりお待ちしております。

◇日　時　令和２年８月22日（土）17：30

◇会　場　高崎ワシントンホテルプラザ

文大同窓会の組織的な支援に感謝 ！

千葉県支部長　**川 名 和 則**

瞬間風速、50メートルの驚異的な暴風雨！　令和元年９月９日、千葉県南部の房総半島を襲った台風15号。続いて10月12日には、19号が襲来。さらに、25日には、記録的な豪雨で千葉県だけでなく、東日本は大打撃を受ける結果となった。

『自然とは、これほど厳しいものなのか。』

特に、台風15号では、30度を超える気温の中での長期化した停電で、肉体的にも精神的にも精根尽きる！千葉県内の停電戸数は、ピーク時には、64万軒に上り、日常生活に大きな影響をもたらす。

我が家では、新築したオール電化物件だから、電気や水道は『数日で回復するだろう』と、東京電力と連絡をとっていたものの誤算で、２台の冷蔵庫の冷凍庫の中身まで、廃棄せざるを得ない始末。

おまけに、電動シャッターや風呂場の使用回復には、てこずった！非常時、ロックを解除し、手動に切り替え、シャッターを持ち上げれば回復できるということに気付いた時には、すでに遅し。１週間後、チェーンソーをコメリ店で購入し、悪戦苦闘しながら倒木を切り払った。通行止めの道路回復するのにも人材不足で時間を要した。

千葉県には、高い山は無く、都留市の標高400mを超える山すら少ないが、河川の氾濫や土砂災害、竜巻による倒木被害で、復旧工事車両が進入できず、停電が回復できるまで３週間以上経過した地域もあったほどである。

気象庁によると、台風は、29個発生、うち15個が接近し５個が上陸、全国的に気温が高い状態が１年を通じて続いたことが要因と指摘している。今後、鉄塔強度の基準厳格化や停電抑制対応策など、グローバル規模での温暖化対策は、急務である。

全国の同窓会支部からの激励のお便りや同窓会本部から心温まる御支援を頂いたことに、改めて感謝申し上げます。

さて、千葉県支部では、例年どおり現役学生への公立学校教員採用試験対策研修会を実施し、今年も大きな成果を上げることができました。特に、２次対策研修会の会場を提供していただいた文理開成高校（鴨川市）や指導に携わっていただいた同窓生の皆様方に厚く御礼申し上げます。

東京都支部の近況

東京都支部長　**松本 多加志**

同窓生の皆様方におかれましてはご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

今年も大きな自然災害が多く、被災されました方々の１日も早い復興をお祈り申し上げます。

令和元年９月１日に令和元年度都留文科大学同窓会東京支部総会が開かれ、令和１・２年度の支部役員をご承認いただきました。全員力を尽くして参ります。ご支援をよろしくお願いいたします。

総会に引き続いて行われた懇親会は、多忙な中、大学より福田誠治学長、本部から柏木精一会長及び桐井幸雄副会長にご臨席いただきました。

ご来賓の方からの「都留大の新たな取り組みや、今後の同窓会の取り組み」等の貴重なお話は、今後の教育の在り方を再確認することができました。

そして、桐井副会長の瑞宝双光章受賞を参加者一同心よりお祝い申し上げることができました。

今年の模擬面接練習会の受講生は、21名と近年に無く多数でした。全員の合格を祈念しております。

〈令和１・２年度　東京都支部役員〉

支 部 長	松本多加志（昭44）			
副支部長	黒田　賀代（昭32）	長沢　和子（昭43）		
	橋本　秀夫（昭44）			
庶　　務	奈良　　覚（昭45）	榛原　紀子（昭58）		
	田村　　聡（昭62）	西村　学徳（平12）		
会　　計	矢野　　優（昭47）			
会計監査	松田　篤郎（昭42）	岡部ひとみ（昭52）		
相 談 役	桐井　幸雄（昭32）	小林わか子（昭31）		
	福元　弘和（昭42）	岩木　晃範（昭42）		

富山県支部の近況報告

富山県支部長　**城 岸　　毅**

富山県支部では、２年に１度の総会を、令和元年７月27日に開催しました。夏休み中とはいえ、部活動の大会や研修会で忙しい中、退職された先輩方や今年新採として学校現場に配属されたフレッシュな先生、総勢33名の参加がありました。

総会では、会務報告、収支決算報告、そして会則の変更を承認いただき、滞りなく終了しました。

続いての記念講演会では、越中史壇会会長・元立山博物館館長の米原寛先生を講師にお迎えし、「立山とその心」と題してお話いただきました。富山県人の誇りである名峰「立山」について、その雄姿だけではなく、「大伴家持の観た立山」という観点でお話いただき、「令和」のいわれにまで言及いただきました。さらに、山岳信仰の観点からも「地獄絵図・立山曼荼羅」や「布橋灌頂会」について詳しくお話しいただきました。改めて、富山県人として「立山」との関わりを確認できたひと時でした。

懇親会では、卒業年度の近い者が同じテーブルを囲みました。年輩の者は、大学在籍時の思い出話に花を咲かせ、若い現職の先生方は、教員としての悩みを話し合うなど情報交換の場になりました。和やかな懇親会も、あっという間に時間が過ぎ、２年に１度の総会が終了しました。

教員採用試験の学習会は、今年で14年目を迎えました。今年は、７名の学生（講師１名）の２次試験受験者の自己アピール・個人面接・模擬授業・小論文の指導を行いました。２会場に分かれ、延べ14回の学習会を行った結果、５名の合格が決まりました。支部では、今後も卒業生の責任として、後輩学生のバックアップを推し進めていくつもりです。

「支部組織の充実と拡大をめざそう」

石川県支部長　谷内誠一

19名の会員が集い、昨年11月16日に和倉温泉「海望」において同窓会を開催しました。事務局からの会務報告の後、お互いの近況報告などをしあい、楽しい時間を過ごしました。参加予定であった数名の会員が所用で参加できなかったのは残念でしたが、新たな参加者が２名あり、とても嬉しく思いました。石川支部がいま直面している１番大きな課題は、同窓会の組織拡大の問題です。都留文科大学の同窓生は教育現場においても他の分野においてもめざましい活躍をされている方がたくさんいますが、それが同窓会組織の拡大と十分に結びついていない現状もあります。近年特に厳しくなった個人情報の管理が大きな壁になっていることも原因の１つとして考えられます。これまでも先輩の役員の方々を中心に、同窓会の折に文学散歩やミニ講演会、能登半島名所散策などを企画して組織の充実と拡大に力を注いできました。私たち新役員も自分の身のまわりにいる同窓生に、声をかけながら同窓会組織の拡大とその充実に向けて力を注いでいきたいと思います。

石川支部でもう１つ力を注いでいるのは、教員採用試験合格のための支援です。毎年７月下旬に白山市内において教員志望者に対する模擬授業と面接指導を行なっています。昨年は４名の教員希望者のうち、３名が見事合格の栄冠に輝きました。その指導を通じて、学生達の真摯に学ぶ姿勢と「都留文科大学の指導や就職支援の質の高さやきめ細かさ」に感心させられています。今後ともいっそうの工夫を重ねて学生達の支援にがんばりたいと思います。

＜石川県支部役員＞

支部長　谷内　誠一
副支部長　下出　貴
事務局長　徳野　正一
会計　宮本　健司
監事　光岡　和道

「第一志望　都留文科大学」

福井県支部長　福田　修

令和元年12月７日（土）福井市のアオッサを会場に30名の参加のもと、第28回城山会総会・講演会・懇親会を行いました。講演会では福井県民に最も読まれている情報誌「月刊ウララ」の編集長・宮田耕輔氏に「第１志望　都留文科大学」と題して、大学への思いと現在の活動についてお話いただきました。キーワードは「つながり」と「非匿名社会」。バイト先のGSや通い詰めた居酒屋、創設間もない社会学科の様子を交えながらの講演は、過ごした年代は異なるものの、私たち卒業生を懐かしい都留の町へと誘ってくれました。また、その頃の仲間とは卒業して20年以上過ぎた今もつながっていると語る宮田氏の言葉からは演題にふさわしい強烈な都留への愛が感じられました。

懇親会では、丸山副会長の軽妙な司会進行により和やかな雰囲気の中で世代を超えた語らいが持たれました。近況報告では、懐かしい都留での生活と卒業後のそれぞれの歩みが語られました。

「城山会」では、持続可能な会の運営のため若手会員のLINEグループを立ち上げました。教員採用試験受験者の面接指導と合わせて、若手も参加しやすい会の運営に努めていきたいと考えています。

【令和元年度「城山会」役員】

会長　福田　修（S57初）
副会長　丸山　繁喜（S57初）　佐藤　康裕（S62初）
庶務　峯森　一浩（H21国）
会計　和中　律英（H18社）

山梨県支部の活動状況

山梨県支部長　石井正巳

本支部では、今年もまた、「教員採用試験２次試験対策会」を７月28日（日）に本学内において開催しました。

開催において、同窓会本部役員や本学キャリア支援センター等の関係者の方々のご支援をいただきました。昨年度、山梨県教員採用試験に合格され、学校現場で活躍されている９名の新採用教員と本県同窓会の９名を講師に招きました。午前は、新採用教員９名に、２次試験に向けての自身の体験談や具体的な対策等を発表していただきました。参加した学生たちは、先輩からの話を真剣に聞き入っていました。午後は、同窓会役員等が面接官となり、集団討論と模擬面接を行いました。

この学習会を通して、参加した学生たちの意識は高まり、自分自身の甘さに気づき、さらに真剣に採用試験に取り組もうとする姿勢が見受けられました。

嬉しいことに、この学習会に参加された学生のほとんどが山梨県教員採用試験に合格。また、昨年度、学習会に参加したが、合格できなかった学生も多く採用され、「学習会のおかげ」という声が届きました。

さらに、今年から新設された『大学推薦』においても、「本大学から推薦された学生の５人が合格された」という吉報がありました。

キャリアセンター室長でもあり、本大学全国同窓会の会長でもある加藤一雄様を中心とするキャリアセンター室の皆さんや今までの同窓会役員、講師をご多忙の中、快く引き受けて下さった同窓会の皆様方のご苦労が報われたことだと信じています。

前列中央は２年間苦労して頂いた
千野文雄前会長

５月に毎年開催されるキャリアセンター主催の県ごとの在学生との懇話会及び模擬面接会も教員を目指す学生達にたいへん役立っていることも忘れてはならないことです。

本支部の定期総会は、６月の役員会を受け、全国同窓会と同日の８月３日に開催されました。総会において、承認された役員を紹介します。

2019・2020年度同窓会役員

会長　石井　正巳（S52・初）
副会長　一瀬　英治（S46・国）
副会長　牛山　正司（S51・初）
事務局長　笠井　正宏（H22・院）
事務局長　北川　圭吾（H13・初）
事務局次長　諏訪　桂一（S57・国）

新年号「令和」とともに

長野県支部長　下島一道

令和元年、新しい年号になり初めての長野県支部総会。その予定された２週間前に台風19号が日本を襲い、同窓会会場予定だった上田市では、上田電鉄別所線の鉄橋の一部が崩落。「支部長を引き継ぎ初めての長野県支部総会は台風のため中止」と危惧し暗い気持ちになりました。会場である東急 REI ホテルの方の「インフラ整備されるので大丈夫だと思います。」の声に後押しされ、年に１回の「花のかげ」を歌える機会を楽しみに開催を決定しました。

当日は福田誠治学長様、柏木精一同窓会長様にご出席いただき、長野県各地から12名の参加者で開催することができました。お忙しい中ご出席いただいた福田誠治学長様、柏木精一同窓会長様から、過去と現在の日本の社会・企業の現状から今後の展望を見据え、大学の現状と今後の発展について、また同窓会の様子と大学への協力の仕方についてご講話をいただきました。大学が力強く変貌・発展している状況と同窓会もともに歩んでいる様子を伺い、心強く思いました。

引き続いて行われた懇親会では、自己紹介を兼ねてそれぞれの時代の都留大、ゼミや先生の話、下宿の話などで交流し、年代を超えた思い出話に花が咲きました。

令和元年度岐阜県支部役員会の開催

岐阜県支部長　清水久司

今年度は、役員会のみ開催の年です。その役員会では「新しい会員の登録が進まないことと併せて、会員の高齢化が進んでいる」ことが話題になりました。支部として、組織の充実と活性化が課題です。

（１）役員会の活性化のために（規約の改正）

昨年度の引継ぎ時に課題となったことを整理して、規約の文言をすっきりさせました。これで役員の引継ぎがスムーズにできるようにしました。役員を引き受けることが重荷にならないよう配慮していきたいと考えています。

（２）会員間のつながりをより強くするために

現在、同窓生の住所など、正確な情報が掴めていないのが実情です。

・会員の伝手で知り合いの同窓生を紹介してもらう。
・大学の情報や支部の情報などを発信する手立てを工夫する。
・卒業を控えた県内学生とは、卒業後もコンタクトがとれるようにする。

（３）後輩への支援を充実させるために

・教員採用試験受験者への積極的な支援を考える。

そのために、他支部で行われている方法も参考にしたい。

・採用後の後輩への支援として、例えば初任者を激励訪問する。

などが考えられます。

当たり前のことばかりですが、こういった活動を地道に重ねていくことが組織の充実と活性化につながるのではないでしょうか。

いずれにせよ、支部会員にとって少しでも魅力ある同窓会支部にしていくことが、役員全員の願いです。

来年度は総会を開催します。まずは、総会への参加者を前回よりも増やすことを目標に、総会の準備を進めていきたいと考えています。

6/30
ホテルグランベール岐山

明るい元気な令和時代を

静岡県支部長　臼井　泰

今年もわが大学合唱団の全国大会金賞受賞にお祝いを申し上げます。11年連続金賞受賞、本当におめでとうございます。令和のスタート、今後の活躍が楽しみです。また、秋には、台風15号・19号さらに21号の豪雨、強風で特に長野や関東、東北地方が大きな被害に遭われました。被災された方々、お亡くなりになった方々に心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。

さて、本年度も令和元年10月19日にホテルシティオ静岡で支部総会を開きました。参加者は20名を欠きましたが、40代の若者？の初参加も含め４名、初参加の方がいらっしゃいました。静岡県の同窓生数は1500名を超えています。教職のほか、各方面で活躍されています。悠々自適の生活をしている方もバリバリ現役で働いておられる方も、年に１度都合をつけて顔を合わせましょう。

次回は、日程を初夏に変えて、６月20日（土）に伊豆・長岡「おおとり荘」で開催する予定になりました。会員の皆様、万障繰り合わせて是非ご参加下さい。個人情報何とかで卒業生の把握が十分できていませんので、下記連絡先にご一報いただけると有り難いです。

小生、毎年大学で開催される「在校生との懇話会」で10数名程の教員志望の学生方とお会いしています。最近の卒業生からの近況も伺いたいと思います。

〈連絡先〉西部・大塲　孝純　0538-35-4779
中部・江川　初枝　054-292-2231
東部・星屋　康　090-1289-0902
臼井　泰　090-2185-8147

Ｒ１総会　ホテルシティオ静岡にて

第５回愛知県支部（県富岳会）総会に向けて

愛知県支部長　竹内義信

今年度も県内７地域が、それぞれ懇親会や研修会等を計画・実施し、会員相互の親睦と教員個々の資質・能力、力量の向上に努めました。

また、８月17日には、教員採用選考２次試験を受験する講師、学生を対象に学習会を開き、各地域から７名の校長が講師として参加しました。本番さながらの厳しい模擬面接を体験した受験者からは、「今日、学んだことを本番でも生かしたい」「自分に何が足りないか分かった」といった声が聞かれました。

12月７日には、ザ サイプレスメルキュールホテル名古屋にて、地域交流会を開催しました。参加者は、OB６名を含め、総勢22名。１年ぶりの再会に大いに盛り上がり、最後は、「花のかげ」を４番まで歌いきりました。

来年度は、５年に１度、実施している愛知県支部(県富岳会)総会を10月24日に開催します。５年前の参加者は83名でしたので、今回は100名を目標にしています。各地域が、この目標達成に向け、一層の組織の強化を誓い、会場を後にしました。

【令和元年度支部役員】

支部長	竹内　義信（名古屋　58初教）	
事務局長	水野　修司（名古屋　61英文）	
地域幹事	名古屋	加藤　由恵（３初教）
	尾　張	川村　良司（61英文）
	知多・海部	甲斐　真一（59初教）
	西三河	平岩　康彦（58初教）
	豊田・みよし	杉浦　俊孝（58英文）
	新城・設楽	後藤　康仁（58英文）
	東三河	田村　圭司（63初教）

三重県支部　第14回総会と懇親会

三重県支部長　田畑繁行

８月24日、津市の教育文化会館において、支部総会を開催しました。本年度も数名の初参加を含む22人の参加で、盛大に開催することができました。

総会では、４月の同窓会理事会報告の後、事業・会計報告、役員紹介、今年度の活動等について承認されました。

総会後の記念講演は、会員で現職の教育長をされているお２人に講演をしていただきました。服部裕さん(亀山市教育長：S57初教卒)には、「大学生活をふり返って」と題して、ご自身の学生時代の下宿生活、クラブ活動、アルバイト等について、様々なエピソードを交えながら楽しく話していただきました。

近藤久郎さん(桑名市教育長：S55初教卒)からは、「人生100年時代」と題して、今後の世の中がどのように変化し、少子高齢化の中で自分たちがどう生きていけばよいのか、いろいろな資料を提示していただきながらお話いただきました。

総会後の懇親会は、参加者一人ひとりが都留での思い出や近況を話すことで会話がとても弾み、終始和やかな雰囲気で進められました。

県支部は、今後も会員相互のさらなる親睦と交流を図るため、支部組織の充実と懇親会などの行事を積極的にすすめていきたいと思います。会員の皆さんのより一層のご協力をお願いいたします。

平成31（令和元）年度 三重県支部役員（卒年）

顧　問	福田　和幸（S46国）	
会　長	田畑　繁行（S54初）	
副会長	廣田　貞代（S53初）	田中　幹也（S52初）
監　事	中瀬　善美（S47国）	八重嶌敏一（S55初）
事務局長	六田　嘉郎（S57初）	
会　計	松岡みつ子（S56初）	
庶　務	一木　尚子（S52初）	宮崎　弘子（S56初）

滋賀県支部 結成６年目 第６回支部総会と懇親会を実施

滋賀県支部長　松嶋孝雄

滋賀支部が結成され６年間が、経過しました。年１回の総会も、はや６回を数えました。

令和元年８月18日にホテルボストンプラザ草津において、事務局長様のご尽力により、第６回の滋賀支部同窓会総会と懇親会を開催することが出来ました。我が支部事務局には大変な努力をして頂いています。開催回数は６回になりましたが、参加者数は、ほぼ変わらない人数で開催され、極一部新しい方に参加頂いていました。そうした経過でしたが、今年度は新たに、20歳代の現職の先生方が、２名出席してくれました。今後の支部の弥栄や少し大言壮語の感は否めませんが、「滋賀教育の発展に寄与するものになり得るのでは」と老人の儚い糠喜びとは言えども、微かな光明が見えた思いがいたしました。

また、今年度も、理事会に参加することが出来ました。昨年同様、その会で耳にしましたお話で、我が責任をひしひしと感じました。会長として非力であることを申し訳なく思っています。しかし、事務局長（村田氏）の尽力により、今年度は、本大学の福田学長先生が公務多様であることから、副学長の安毛先生から、お教えを賜る機会を設けて頂きました。

この拙文が、我が県同窓会員の方々の目に留まり、参加意欲を高めて貰えればと、願っています。

滋賀県支部役員

支部長	松嶋　孝雄（昭和46年度教卒業）	
副支部長	大澤　　裕（昭和56年度国卒業）	
会計監査	塩屋　勝志（昭和57年度教卒業）	
	鳥飼　雅一（昭和63年度教卒業）	
事務局長	齊城　勝美（昭和59年度教卒業）	
事務局	大橋　雅子（昭和57年度教卒業）	
	中村　雅昭（昭和58年度教卒業）	
	村田　良文（昭和58年度教卒業）	

京都府支部第６回総会と懇親会

京都府支部長　枡谷雄三

12月１日（日）に総会と懇親会を行いました。JR京都駅そばのホテルで昨年の参加者を上回る人数で行いました。

『城山・桂川だより』第７号（31年３月発行。全会員に郵送。A４版４ページ）等で会員のみなさまにお知らせしました。

当日は、同窓生から「息子のいじめと学校対応」と題した講演をしていただきました。障害を持ったお子さんの様子、いじめに遭った様子、大学を出て、今働いている様子などが紹介されました。障害は、早くに明らかにした方がよいと思ったとも話されました。なかなか好評でした。

例年の事務局長の労作の小冊子は（総会資料とともに欠席者からのメッセージ）、読み応えがあります。それに大学から取り寄せた資料が配布されました。11月には「道の駅つる」開業３周年イベントとして都留大同窓会ブースに、会員の「ちりめん山椒」

を置いていただきました。また、京都毘沙門天の市では、写真のように都留大の宣伝をし、中学生には大学名入りのボールペンも配布し、しっかり「都留文科大学」の名をすり込んだということです。

来年は、また北部開催になります。

【京都府支部役員】

相談役　酒井　好治（S45年卒）
支部長　枡谷　雄三（S45年卒）
副支部長　北村　友子（S49年卒）
事務局長　草野　　真（S50年卒）

時の流れを超えて　みなさんお元気ですか　～大阪府支部同窓会～

大阪府支部事務局　小林　　治

今年度も12月14日(土)大阪府支部同窓会及び懇親会を行いました。場所はいつもと同じく、JR南海電車三国ヶ丘駅前「焼肉のはや」でした。

今回は大阪支部同窓会を立ち上げていただいた方々をはじめ、10名が集いました。今年度新しく参加された方もいらっしゃいました。いつも通りアットホームな会合で会員の皆さんそれぞれが30年40年50年時の流れを超えて学生の頃の都留での話に盛り上がりました。また、昨年の同窓会総会の折に撮影した今の都留の写真や富士急行大学前駅の話を紹介し、都留の変容に驚くなど、あっという間に

時間が過ぎていきました。最後は懐かしい「花のかげ」の合唱で会をお開きとしました。

前回もお知らせしましたが、大阪府支部同窓会として毎年１回の総会を秋ごろに続けております。また、若手の会と銘うって同窓生に向けての学習会や懇親会も２回行っています。学生の皆さんや同窓生の皆さんの採用試験に向けての学習会も行ってきました。大学より問い合わせいただけましたら対応させていただきますのでお知らせください。

来年度も秋の総会の開催を予定しております。ふるって皆様ご参加いただけましたら幸いです。大阪事務局までご気軽に問い合わせください。よろしくお願いいたします。

兵庫県支部の近況

兵庫県支部長　高谷和久

令和元年６月８日（土）第29回都留文科大学同窓会兵庫県支部総会を明石市において開催しました。

現在兵庫県支部は７つの地区（東播磨、西播磨、神戸、阪神、丹有、但馬、淡路）に分けて総会を開催しており、今年で５周目に入る記念すべき総会に、昨年よりお願いしておりました福田誠治学長にお越しいただき「令和時代における教育の在り方」と題して講演をしていただき、非常に有意義な総会となりました。

兵庫県支部の活動も次年度で30周年となり、支部同窓会の在り方を問う時代がきたように思います。

兵庫県支部が発足した当時は、ただ、兵庫県から遠くはなれた都留市という町で苦楽を共にした仲間が数人集まり、学生時代の思い出や現在の教育について熱く語り合う懇親会が中心でした。

しかし、支部の活動も20年を迎える頃から兵庫県下の現役の先生方の活動や悩みを聞くために各地区で総会を行うようになりました。

現在は、兵庫県の教員採用試験を受ける大学生に筆記試験、模擬授業、面接の指導を行っております。

ここ数年、支部の高齢化が進み、若い方にバトンを渡したいと思っているところであります。

〈令和元年度　支部役員名〉

会長　高谷　和久（S43初教卒）
副会長　小林　伶子（S40初教卒）
副会長　後藤　純二（S47英文卒）
副会長　中山　貞二（S54初教卒）
事務局長　庄田　康夫（S48国文卒）
事務次長　松尾　弘子（S60初教卒）
会計　小西　　勝（S45国文卒）
会計監査　牛尾　英俊（S46初教卒）

新しい時代を迎えて…

奈良県支部長　岡田善英

今年も８月25日に学園前の中国料理店『銀座四川』にて、奈良県支部総会を開催しました。『令和』の新しい時代を迎えて最初の同窓会でした。

少子・高齢化がますます進んでいく傾向にあって、学校の児童数の減少、高齢者の増加は歯止めがきいていません。我が支部同窓会の会員も、新会員の登録が途絶えて久しく、現有会員の高齢化が進んでいます。会員の中には体調を崩されたり、家族の介護等の事情で参加ができないとのお返事が増えてきつつあることから、決して本会の存続も楽観できません。このような現状にあって、私たちの活動に元気をくださっているのは、毎年送られてくる大学の同窓会報であります。新しい時代を先取りする取組を進められている大学の動きに驚き、全国の支部活動を参考にさせていただいています。

支部設立から25年。阪神大震災による途中の活動休止を経て、最近では役員の皆様の総会開催への情熱が核となって毎年開催ができています。今後も新しい時代を迎え、さらなる同窓会の発展を目指したいと考えています。

令和元年度　支部役員

名誉会長	瀧川　佳市		
会　　長	岡田　善英		
副 会 長	高橋　　強		
	山本　泰彦		
監　　事	石田　好庸		
理　　事	西尾八千穂	辻　　明彦	
	米田　悦子	清水　直樹	
	池田　祐之		

盛況！和歌山県支部交流会

和歌山県支部長　谷口博保

和歌山県支部が39番目の組織として結成されて４年が過ぎようとしています。

和歌山県は広いうえに山間僻地が多いため、会合などを開く地の選定に苦労があります。県北部から県南部までは交通網が整備されつつあるものの、自動車では片道３時間あまり、鉄道を利用しても同程度を要します。さらに大阪府に在住している和歌山県出身者も会員として入会協力していただいています。このようなことから役員会や交流会・懇親会等の開催地も偏らないようにしています。

今回、令和元年11月30日に本州最南端の地で橋杭岩（はしぐいいわ）という大小約40の岩が一列におよそ850メートルもの長きにわたって連続してそそり立っている奇岩群のある串本で交流会を開催しました。地元の会員を始め、県北部や大阪府在住の会員が３時間、４時間近くかけて集まり、総勢19名の参加があり大いに賑わいました。

今回の交流会では、初めて顔を合わせた方がいたり、同学年で「久しぶり！」と声を掛け合う姿があったりして自己紹介にも花が咲きました。

令和２年２月22日（土）は２年に１度の総会開催です。会報が届く頃には総会を終えていますが、交流会等の案内が届きましたらぜひご参加ください。

設立時の「本会が、楽しいわくわくする会になるよう会員一同努力しよう」という目標のもと、さらなる支部活動の充実を図るよう努めますのでご支援ご協力くださいますようお願いいたします。

第14回　鳥取県支部総会

鳥取県支部事務局長　真島順子

令和元年11月23日（土）に都留文科大学鳥取県支部総会を行いました。今年は、19名の参加があり、にぎやかで楽しいひと時を過ごすことができました。新卒の同窓生２名の参加もあり、今後もますます鳥取県支部が発展し継続していくことが期待できそうだと感じました。

振り返ってみますと、平成14年に鳥取県支部を設立、第１回目の支部総会が開催されました。第２回開催まで数年のブランクがありましたが、平成19年より、11月23日勤労感謝の日を支部総会の日として、毎年の恒例行事となりました。

今年は、「恒例となって随分続いてきたけれど、いったい何回目の総会になるの？」ということが話題となりました。これまで、「平成○年度　支部総会」という表現で開催してきたのですが、「令和」時代となり「令和元年度…」と表現してみて、ふと、回数について皆が気になったのでした。これまでの資料を調べてみたところ、表題のように、早いもので14回を重ねることができていました。

年に１度の同窓会ですが、何度か参加させていただくうちに、異なる世代の先輩や後輩と親しくなるので、都留での思い出話はもちろんですが、お互いの近況報告でも盛り上がります。日々の仕事の疲れを吹き飛ばすような、笑顔あふれる有意義な会合となっています。来年度第15回支部総会も、多くの仲間が参加してくださることをお願いいたします。

支部設立15年目を迎えて

島根県支部　**服 部 哲 郎**

令和元年10月26日（土）、支部総会を県西部の浜田市で開催しました。「初めて」の西部での開催です。本県は東西に長く広がっています。県民歌に、「薄紫の山脈は　はるか希望の雲を呼び　磯風清き　六十里　みどりの海に　春たてば…」とあります。「六十里」は、約240㎞、浜田市は県都松江市から約121㎞離れた位置にあります。本会の参加者は５名でした。

支部長の挨拶を始めとして、報告・今後の事業への取組、懇親会と続き、有意義な会となりました。少人数だからでしょうか、入学時の思い出、新旧校舎や下宿、サークル活動や友達のこと、また島根に帰っての教員生活では、同一勤務校はなかったものの研修会での出会い等、話も弾みました。今後の事業等については、以前から繰返されている世代交代の考えを念頭に、役員の若返りや西部地域会員の参加を図ることが話されました。後者の件は、高年齢や交通の不便なこと、若い会員の呼びかけ人が皆無であることから実現し難い現状です。良い解決策がないか今後の課題です。

さて、本年浜田市は開府400年に当たります。様々な企画や試みが実行されております。10月には「群青　浜田誕生そして明日へ」という創作ミュージカルが上演されました。これは浜田開府400年の歴史や文化を辿りながら、先人たちの生きざまを思い、明日への希望を模索する浜田に生きる若者の愛と未来を描いた作品です。この壮大な歴史を語るのが郷土史家として高名な「大島幾太郎」です。その大役を（S46卒）藤井恭郎さんが見事に演じられました。２時間半にも及ぶ舞台で、歌い語られたその活躍に心から拍手を送りたいと思います。

以下、現在の役員を紹介します。

島根県支部役員（卒業年度）（注・全員昭和）

○**顧　　問**　木村　晴男（S44）
○**支 部 長**　小藤　　貢（S45）
○**副支部長**　服部　哲郎（S44）　槙野　博巳（S45）
　　飯島　良子（S53）
○**理　　事**　寿　　慧信（S42）　伊藤　　博（S44）
○**事務局長**　大島　英明（S59）（理事も兼ねる）

16周年を迎えた岡山県支部

岡山県支部長　**原 田 直 樹**

私ども岡山県支部は設立16周年を迎えております。昨年７月西日本を襲った豪雨災害の被害は甚だしく、今もなお復興に向けて国・県・市による復旧作業が続いています。高梁川に流入する小田川の堤防補強、流入経路の付け替え工事とともに、河川敷の整備も行われています。被災された方々の中には、今もなお仮設住宅や近郊の借家での生活を余儀なくされているのが実状です。

大学同窓会本部からはお見舞い金を頂戴いたし、岡山県保健福祉課をとおして義援金の形で寄付させていただきました。その節はありがとうございました、心からお礼申し上げます。

さて、平成31年２月11日に公立学校共済施設「ピュアリティまきび」で支部総会を開催しました。掲載の写真が総会参加者です。３連休の最後の日の影響か、９名の参加となり、昨年度に比べてややさみしい会合でした。毎年支部総会は２月11日頃を予定していますので、次回こそは日程調整してくださり、多くの方々が集い、懐かしいお顔をお見せくださることを祈る思いです。若手の会員も多数参加してくれますよう心待ちにしています。

今後の岡山県支部を発展させるためには、若い会員の参加がぜひ必要です。今後も卒業後は岡山に帰って来て同窓会活動に貢献してくれる文大生を都留に送り続ける岡山県支部にしていきたいと願っています。支部役員も一致団結して、岡山県支部を盛り上げていきますので、お力添えをお願いいたします。

岡山県支部役員

支 部 長　原田　直樹
副支部長　菱川　　徹
理　　事　野﨑　博子　岩城　孝志　中野　元雄
監　　査　関野　茂夫　竹内　真二
事務局長　野﨑　博子
事 務 局　中野　元雄　竹内　充子

人の絆で　佳き年　築かん

広島県支部長　**小 谷 桂 司**

昨今の天災による風水害、人の絆で、佳き年にしていきたいものである。

支部活動も本当に少しずつ、少しずつである。

例年、大学で行われる４月の同窓会理事会後の懇談会・交流会、５月の模擬面接試験体験会の日に行われる同郷の在校生との懇談・情報交換会で、お会いする人がいます。

毎年３月末、新聞報道に掲載される広島県（市）の人事異動の中の「新規採用者」の欄にて、その人の名前を見つけ出した時は、「都留文大・都留市で、学んだこと」を活かしてくれる人が「広島に帰って来てくれる」と、喜ぶ自分がいます。

在校生には、大学で行われる４月・５月の会合に多数の参加を望みたい。そして、広島に帰って来て、「新たな風を」と願っています。

さて、今年の県の総会の場を竹原市（日本遺産；重要伝統的建造物群〈町並み、江戸時代の製塩業。頼山陽一門〉、安芸の小京都）、近隣にウサギの放し飼いの島；大久野島にて実施、企画したのですが。

総会参加者を増やすためにも、まだまだ、工夫をと考えています。佳き未来に託すためにも。

庚子　平穏祈る　子の年に
　人の絆で　佳き年　築かん

桂　歴代

令和元年度役員

顧　　問　金久　睦彦　中西　正一
会　　長　小谷　桂司
副 会 長　目崎　仁志　吉貞　至誠
事務局長　二宮　　正
理　　事　田丸　正美　山城　義明　玉山　　洋　猪原　憲三
　本宮　達弘　土橋　義信　三永　政幸　池田　桂子
　島本　智子　福間　武志　三京　弘明
監 査 役　白石　　隆　五葉木輝正
監　　事　山中　　護　田辺　恵子　兼丸　裕子　安藤　正弘
　奥窪　尚昭　末房　朋子

支部結成26年目を迎えて

徳島県支部長　小倉健司

徳島県支部は、平成５年に結成され、令和元年度で26年目を迎えています。これからも大学の発展に寄与できますよう、また、支部が充実していきますよう活動を活性化させていきたいと思っています。

令和元年８月17日に、昨年に引き続き、ホテルグランドパレス徳島にて、都留文科大学同窓会徳島県支部総会ならびに懇親会を開催しました。掲載の写真が本年度の参加者です。

総会において、都留文科大学の現状と今後の方向性（①平成30年４月より教養学部の開設　②東日本大震災以降、毎年義援金の送付。西日本豪雨の時も。③学生との懇話会　④模擬面接試験体験会　⑤本年度の大学での同窓会総会等）の報告伝達をしました。そして、今後の活動計画・予算・役員等の報告について承認されました。

総会後の懇親会では、自己紹介を兼ねての近況報告や都留での学生生活の様子や部活動・サークル活動・ご指導いただいた先生方とのエピソード等、なつかしい思い出話に花を咲かせました。

出席者には、夫婦や親子がそろって文大生という方々や都留文科大学創立当時の同窓生も出席され、世代を越えて都留の地に思いを馳せながら、誇りに思うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

和やかな雰囲気の中、終宴を迎え、参加者全員で学生歌「花のかげ」を合唱しました。

今後とも都留文科大学や徳島県同窓会が、益々発展していくことを心から祈ります。

次回は、令和２年８月の開催予定です。たくさんの同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

愛媛から令和元年の総会について

愛媛県副支部長　杉田正高

はじめに、平成30年７月の西日本豪雨の際は、都留文科大学同窓会より被災した愛媛県に豪雨災害義援金が贈られました。愛媛県民として厚くお礼を申し上げます。

さて、愛媛県支部総会並びに懇親会は令和元年12月21日（土）に、松山市の「国際ホテル松山」において、会員16名の出席の下で開催されました。

総会では、事業報告、会計及び監査報告、役員改選等が行われ、各議案が滞りなく決議されました。

講話では、本学の卒業生で、昨年、新居浜市教育委員会教育長に就任された高橋良光様から「大切にしていること」と題して、学生時代のある先生との出来事から「物事の捉え方で人生が変わる」ということを学び、それが今でも心の中に生き続けているとの有意義なお話がありました。

懇親会は昔話や近況報告で盛り上がりました。谷村の木造校舎から田原の近代的なキャンパスまでと時期はそれぞれ違っても、互いの絆は都留で送ったあのかけがえのない学生生活と、今日あるのはそのおかげであるという感謝の気持ちです。

次回の総会は令和４年です。さらに多くの参加者による親睦の輪が広がるよう役員一同創意工夫を重ねてまいる所存です。

最後に、愛媛の地から都留文科大学及び同窓会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

支部長　谷川　忠孝
副支部長　杉田　正高　藤田　典子　高智　久子
事務局長　藤田　典子
監　査　野井　純
理事長　山本　正則
理　事　池田　正次　別處　正和　奥本　賢
河野　文俊　坂本新一郎　南條　敬子
中野　実

「つながろう・広がろう」高知県支部

高知県支部事務局長　田辺長美

平成15年６月に高知県支部が設立されて、今年で17年目を迎えました。同窓生の会員数は80人前半と少ないものの、県内同窓生の集いは脈々と続いています。本同窓会は、会員相互の研修と親睦を目的に毎年８月第１土曜日に行われています。同窓会では参加者全員が笑顔で集まり、都留での生活を語り合い、卒業年度や学科に関係なく親交を深めています。

令和元年の総会は、８月３日に高知市で開催されました。高知県支部総会では、参加者全員による「花のかげ」の合唱での開会が恒例となっています。総会では、支部長から春に行われた理事会での報告があり、新しい学部・学科の創設、グローバルな視点を重視した教科教育の充実など情報を共有することができました。社会状況に応じて魅力ある大学として進化し続けていることを興味深くお聞きしました。自分たち同窓生も、県内でそれぞれが「魅力ある学校」として、知り合いや教え子たちに都留文科大学について情報発信を心がけようということも話題になりました。また、大学周辺をはじめ都留の町並みの様子も詳しく聞くことができました。

総会後の懇親会では、それぞれが近況を報告し合ったり、大学での生活を振り返ったりしながら楽しい時間を過ごすことができました。大学でお世話になった先生方や優しくしてくれた先輩のこと、下宿での思い出、高知と比べ厳しかった冬の寒さなど、参加者みんなで懐かしく思い出し、盛り上がりました。また、支部総会への参加者が固定化されており、新しく参会する同窓生がなかなか増えない状況が続いていることから、それぞれが声をかけ合ったり、誘い合ったりしていこうということも確認しました。

そして、研修として「高知城歴史博物館」を見学しました。博物館の展望ロビーから見える迫力ある高知城に感激するとともに、土佐藩・高知県ゆかりの貴重な歴史資料を見ながら、土佐の歴史文化の魅力を改めて見直す機会となりました。

次回の支部総会は、８月１日に開催の予定です。「つながろう・広がろう高知県支部」を合い言葉に同窓生の皆様の参加をお待ちしています。

新会員の発掘！いろんな地区での総会も！

長崎県支部長　**平山繁壽**

今年度も、長崎市の「セントヒル長崎」で、令和最初の総会及び懇親会を開催しました。今年も、参加者が1名増えて10名になりました。

参加地区が、長崎・諫早・島原半島の3地区に限られているのが残念ですが、平戸市・佐世保市からは遠いし、五島・壱岐・対馬等の離島地区からは、船又は飛行機でとなると参加が厳しい状況です。

会が発足以来、事務局を担当してくれていた同級生は、毎年五島から船で往復し、計画・実施してくれていたことには、今考えると頭が下がる思いです。

私も、新任の頃は上五島の新魚目町に8年勤務し、校長になった時にも壱岐に3年勤務しました。通算島に11年間勤務しています。島の勤務は、台風や荒天の時に本土との行き来が困難な面はありますが、島の中での生活に関しては、快適に過ごすことができます。

空気はいいし、食べ物はおいしい。人情味ある島の人々にも触れることができ、大好きな魚釣りもできます。私にとっては忘れられない有意義な経験です。

私が、同窓会支部長を引き受けて5年が経過しました。その間、「同窓会名簿完成」と「総会への出席者の増加」を願って、計画・運営をしてきました。

その中で、総会開催地の長崎地区が地区部会を実施し、総会への参加者を増やそうと努力してくれました。その成果が実り1人増え2人増え3人増えと徐々にではありますが、参加者が増えてきています。

大学同窓会事務局から頂いた「県同窓会名簿」を元にして作成した住所に総会案内状を出し、返信を楽しみに待ちながら県内在住の確認をしてきました。

様々な取り組みを通して、両名簿から漏れていた同窓生も発見することができ、喜びを感じています。

これまで、初回からずっと長崎市で総会を開催していましたが、今年度の総会で新たな提案もあり、来年度は、私の地区である「**島原市**」で開催することになりました。**期日は、令和2年7月25日（土）又は8月1日（土）**を考えています。多くの皆さんの参加を待っています。

今後は、「いろんな地区での開催も有りかな！」と考えています。島でも可能です。

3つの同窓会、永遠に！

熊本県支部　**高倉利孝**（昭45年度英文学科卒）

都留文科大学を卒業し、38年間の教職人生を終えるや、すぐに青少年教育施設「天草青年の家」に5年間務め終えた。責任ある職務から解放され、ホッとひと息つく間もなく、上天草市教育長を拝命し、3年目となる。

子供達の教育に携わり、その責任の重さを感じながら、身に寄せて来る課題に対し、必死に取り組む毎日である。時には自分の無力さを感じ、時には、うまく解決した安堵感を噛みしめながら「もう少し」と頑張っている。

職務のひとつに学校訪問がある。市内17の小中学校を訪問し、子供達の学習の様子や先生方の頑張り、教育環境を見て回り、教育委員会として、できる事に取り組む。そんな中で1番の楽しみは子供達と一緒に食べる給食である。食べ終わった後、クイズを出すことにしている。突飛な答えに爆笑したり、頓知力に驚かされたり、絆が深まるひとシーンである。

今でも、私の心の依り所となる大学の同窓会が3つある。1つ目は、私の下宿だった都留市高尾町三の丸の「土屋荘」の同窓会である。襖や障子で仕切られた部屋同士で、寝食を共にした仲は、大人になっても続いており、毎年、関西を中心に行われている。

2つ目は、熊本県支部の同窓会である。2年に1度の会であるが、必ず「武田節」を歌って閉会となる。最近は、現役で教員採用に合格する後輩が増え頼もしい限りである。

3つ目は、去る11月23日に実施された都留大氷上部の同窓会である。今まで、関東を中心に行われていたがどうしても天草でという希望で、今回の運びとなった。上天草で一番景観もよく、料理もおいしい「ロマン館」を会場に選んだ。13名のささやかな会ではあったが、富士山を目の前に仰ぐスケートリンクでの厳しい練習に、話の花が咲いた。次回は横浜で会う約束をし、閉会となった。

今の自分があるのは、都留と言う町にあった大学のおかげである。谷村で青春を共にした仲間達とこれからも、仲よく付き合い、人生を生きる覚悟である。

支部総会・懇親会開催

宮崎県支部長　**取附義弘**

宮崎県支部は、活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、さらに母校の発展に寄与することを目的に、平成9年10月25日に結成しております。本年は、隔年開催としている支部総会及び懇親会を7月20日（土）宮崎観光ホテルにおいて開催しました。

総会では遠くは栃木県から、県内は都城市や延岡市から同窓会総会にご参加くださいました方々に、ご意見や知恵を戴き、議事も式次第によりスムーズに進行することが出来ました。

総会後の懇親会では、福田学長様からのメッセージや大学の近況に、リニアモーターカーの疾走する都留の町並みや思い出の数々、町中を駆け下る清流や楽山からの眺望を脳裏に浮かべながらの歓談に花が咲き、大いに盛り上がりました。また、前回総会で記念講演「剣豪、井上延陵の生涯」をしていただいた本会会員の古川久師氏より、次回作の構想などについて語っていただきました。新作の出版を心待ちにしております。

今回の総会にご都合が付かず、欠会を余儀なくされた方々に、再来年（2021年）の次回総会でお会いできることを楽しみにしています。会員の皆様をはじめ、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご報告に代えさせて戴きます。

第20回（令和元年度）かごしま桂川会（都留文科大学同窓会鹿児島支部）総会を終えて

鹿児島県支部長　本田武久

第20回（令和元年度）支部総会、研修会、懇親会を、11月2日（土）午前10時から鹿児島市のホテル吹上荘で開催しました。

総会では、本部総会の報告・会務報告・会計報告・役員の承認・同窓会本部からの各種資料等の配布及び説明等が行われました。資料等の説明により、大学の変容に驚きの声を挙げる年配の参加者の姿がみられました。

総会後は恒例の研修を実施しました。テーマは「鹿児島発信の歌と芸能」と題して、日本ドゥーワップ界の先駆者ザ・キング・トーンズのボーカルで、地元MBCテレビやMBCラジオのパーソナリティを勤めるジミー入江田さんに1時間半の講演をお願いしました。同氏は、キング・トーンズに師事することになったきっかけや地元放送局での出演の足取り、父親としての生き様などを通しての人生訓を軽妙な語り口で、予定時間いっぱい話してくれました。

午後は、今年もアルコール抜きの昼食懇親会。今年度の参加者は昭和36年度卒業の最年長者から平成28年度卒業の最年少者までの43名でした。女性会員11名の参加もあり、和やかな会食となりました。現職会員も18名と半数近く参加し、活気ある総会となりました。会の後半では、各自の近況報告等を行いました。都留での思い出話には、タイムスリップして絆を深める1日となりました。

支部長　本田　武久（昭和43年度卒）
副支部長　植村　和信（昭和45年度卒）
副支部長　大山　典男（昭和45年度卒）
事務局　水流　広之（昭和55年度卒）
事務局　中村　智子（平成元年度卒）
監事　室屋　綾（平成2年度卒）
監事　平澤　泰明（昭和41年度卒）

沖縄県支部令和元年度総会・懇親会を開催

沖縄県支部長　比嘉正夫

4年ぶりに支部総会を開催できました。役員新体制後初めての総会です。開催することで続けることの大切さ、継続は力なりを身に染みて感じました。支部総会を継続・発展させることが大事です。今年は台風2個が発生している中、ちょうどその間で開くことができました。

令和元年8月11日（日）14時～17時に沖縄県豊見城市内の会議場epicで約20名の参加でした。当日は都留文科大学同窓会長に就任間もない柏木精一会長を迎えることができました。

開会後すぐに全員の自己紹介、現状報告があり、緊張も解け、総会が進められました。若い会員の出席が増えました。その中で今後とも支部同窓会としては会員相互の親睦を深めることに重点を置き、また大学の発展に寄与することを改めて確認しました。

また大学内の沖縄県人会への支援継続や、現役学生との連携強化を図ることも話し合われました。

8月の支部総会は台風の影響があり開催が不安定であり、別の時期での開催も検討したいです。

支部内の情報交換、連携を今後さらに深め、楽しい意義ある同窓会にしていきたいです。

総会にひき続き、柏木精一会長よりパワーポイントも活用して大学の発展の様子や同窓会の現状などについて様々なお話がありました。わかりやすい内容で、感動あり、またなつかしさありのお話でした。総会終了後は軽食を取りながら懇談会を持ちました。初めて総会に参加された方もおり、大学時代を思い返しながら懇談しました。様々な話題に富む内容になりました。

次回の支部総会がさらにいい総会になり懇親を深める会になるよう役員一同頑張っていきます。

体　育　会　紹　介

令和元年度体育会　会長　菊地　健斗

早春の候、都留文科大学の同窓会の諸先輩方におかれましては益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

令和元年度体育会本部は「突破」という基本方針の下、活動いたしました。鶴鷹祭に関しましてはアウェーの地である、高崎経済大学にて行われました。連敗という現状を「突破」するためにも粘り強く戦い抜きましたが、敗北という結果になってしまいました。来年はホーム開催であります。５連敗を阻止し、久しぶりの勝利がもたらされますことを祈願いたします。また、関東甲信越大会を始め、各部リーグ戦にて優秀な成績を収めることができました。このような成績を収めることができましたのも、ひとえに先輩方の多くのご支援、ご協力があってこその結果です。このような環境で部活動が行えますことに感謝し、より一層励んでいきます。今後とも、都留文科大学体育会をよろしくお願いいたします。

令和元年度　男子アイスホッケー部　主将　河邊　拓野

令和元年度男子アイスホッケー部は「関東大学アイスホッケーリーグ４部昇格」を目標に日々練習に励んでまいりました。週に２回しかない限られた氷上練習のなかでチーム内でのコミュニケーションを大切にしながら練習し、個人としてもチームとしてもレベルアップすることができました。関東リーグの結果としても予選リーグ全勝で決勝トーナメントに進み、決勝戦で惜しくも敗れるものの平成26年以来となる準優勝という成績を収めることができました。入れ替え戦では負けてしまい、目標は達成することができませんでしたが、１年間無事戦うことができたのは皆さまのご声援やご協力のおかげでございます。

感謝の気持ちを忘れずにこれからも精進してまいりますので、今後とも男子アイスホッケー部をよろしくお願いします。

女子アイスホッケー部　坂田　涼（国際教育学科３年）

今年度女子アイスホッケー部は、部全体のレベルアップを強く意識し、「全員でアイスホッケーを楽しむ」というスローガンを掲げ、日々の練習に励んで参りました。４月には７代目となる新入部員が10名入部し、歴代で１番多い部員数での活動となりました。それにより、責任と仲間の支えをより強く感じた１年であったように思います。

また、代を重ねていくごとに、女子アイスホッケー部を創部し、これまで築いてきてくださった先輩方の偉大さを痛感しております。そして、このように活動できているのは、体育会本部や男子アイスホッケー部並びに、後援会・同窓会員の皆様のおかげです。今年の公式戦は、目標としていた成績を収めることができませんでしたが、来年度は今年度の土台を生かしつつ、更なる向上をすべく一層精進していく所存ですので、今後とも女子アイスホッケー部を宜しくお願い致します。

令和元年度剣道部　主将　田中　快尚

私たち剣道部は今年度平成から令和へと変わり何かと忙しく、また充実した１年を過ごすことができました。夏の大会では全日本大会への出場を目指し精進してきましたが力及ばず、１回戦敗退という形になりました。１年を通して様々な試合や鶴鷹祭など多くのイベントに参加して部員全員で向かっていくことができました。個人のレベルアップはもちろんのこと、チーム全体のまとまりを作ることができました。代替わりをして新たなスタートを切ったので自分たちが達成できなかった目標を達成してほしいと思います。

また、今年度はたくさんのOBの先輩方に稽古に参加していただき多くのことを教えてもらいました。剣道部の歴史を感じるとともに自分たちが今こうして剣道ができることは先輩方のおかげだと感じました。感謝しております。これからもよい結果を出せるように努力していきます。今後とも体育会剣道部をよろしくお願いいたします。

文　化　会　紹　介

文化会　会長　森　宏太

同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の文化会には30以上の団体が所属し、日々精力的に活動を続けております。その中でも合唱団は「第72回全日本合唱コンクール全国大会」にて11年連続金賞、文部科学大臣賞を受賞するなど大変優秀な成績を収めております。これは、合唱団に所属する団員の日頃の努力の成果は勿論、同窓会の皆様のご支援あってのことと思います。

それに加え PLUS ONE ＋、放送部、写真部等の多団体を陰で支えるクラブ・サークル団体の存在によって文化会に所属している団体の活動はより充実したものとなっております。それ以外の団体の皆様も日々活動に勤しみ、学内は放課後や休日を問わず学生が活動しております。

日頃の文化会の活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。今後ともご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

都留文科大学合唱団　前団長　萱沼　美結

私たち都留文科大学合唱団は今年で創立57年目を迎えました。総団員数60名となった現在、顧問・常任指揮の清水雅彦先生のご指導のもと日々の練習に励んでいます。

自然豊かなここ都留市を拠点に活動をしている私たちですが、訪問演奏にも精力的に取り組んでまいりました。今年は神奈川県支部の総会にもお招きいただき、同窓生の皆様に大変温かく迎えていただきました。励ましの言葉の数々に沢山の力をいただいた演奏会でした。

そして皆様からの応援を胸に、私たちは全日本合唱コンクールにのぞみました。11月23日に京都で開催された全国大会に出場し、金賞ならびに文部科学大臣賞を受賞することができました。数々の壁を乗り越えて金賞を掴み取ることができたのは、応援してくださる皆様の存在があったからです。本当にありがとうございます。

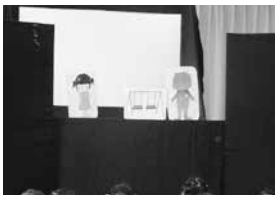
これからも都留文科大学合唱団は応援してくださる皆様とともに歩んでまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

記念 CD「都留文科大学合唱団～10年間の軌跡～」発売中！
昨年度の全日本合唱コンクール全国大会10年連続金賞受賞を祝して、ブレーン株式会社さんより記念 CD が発売されました。これまでの全国大会での演奏曲のほか、都留文科大学学生歌「花のかげ」と愛唱歌「都留は Universe」も収録された 2 枚組となっています。
詳しくは都留文科大学合唱団公式サイトをご覧ください。

児童文化研究部～COLORS～　部長　寺岡　美咲

児童文化研究部では、影絵班、文学班、子ども会班の 3 つに分かれ、日々子どもたちと関わっています。

今年度は 8 月に富士吉田市と西桂町で巡回公演を行い、11月にはぴゅあ富士さんで秋の公演を行いました。 2 月には青藍幼稚園で公演予定です。このほかにも、各施設からご依頼をたくさんいただきました。さらに、普段の活動として毎週土曜日に子ども会、月 1 回、「たんぽぽぶんこ」を行っています。



少しずつではありますが、地域の方々との交流や他団体との関わりも多くなってきています。これからも多くの子どもたちに楽しんでもらい、また多くの方々に私たちの活動を知っていただけるよう活動していきたいと考えています。来年度以降もご協力、ご支援よろしくお願いします。

令和元年度 都留文科大学管弦楽団　団長　田村　光希

管弦楽団は、長い歴史を誇る都留文科大学唯一のオーケストラです。団員は皆日頃から直向きに練習に励んでおります。特に弦楽器の団員は、ほぼ全員が初心者から始めますが、猛練習の末に半年で交響曲を弾きこなす程に成長を遂げます。どのパートにも努力家が多く、温かい雰囲気の良い部活です。

今年度の活動につきましては、11月に行いました第44回定期演奏会において大成功を収め、年末の第24回市民第九演奏会では、市民管弦楽団として都留の地にベートーヴェンの第九を響かせました。

また、今年度は訪問演奏を例年より多く行うことが出来ました。地域の小学校である東桂小学校での演奏会では、子供たちや保護者の方々にオーケストラの音楽を身近に感じて頂くことが出来ました。

今年度の多くの皆様からのご支援につきまして、この場をお借りして御礼申し上げます。これからも伝統あるこの部活にて、オーケストラ音楽の更なる発展に尽力して参ります。来年度の活動への変わらぬご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

学長就任にあたって

都留文科大学　新学長　**藤田　英典**

この度は、ご縁をいただき、教員養成はもとより、公官庁や民間企業などにも幾多の人材を輩出してきた伝統ある都留文科大学の学長に就任することになりましたこと、光栄に思い感謝申し上げます。

都留文科大学の特徴の１つは、地元県出身１割、非地元県出身９割という学生の出身地別構成にあります。北は北海道から南は沖縄までの全都道府県から概ね人口規模に対応して満遍なく集まり学んでいます。

この特徴は、山紫水明の豊かな自然と城下町の面影や10基もある松尾芭蕉の句碑に象徴される豊かな歴史・伝統・文化などと相まって、豊かな教育・学びの基盤になっていると思います。大半の学生は都留市内、大学周辺の学生向けマンション・アパートに住んでいますから、授業はもちろん、自治会・クラブ・サークル活動や図書館等での学習・読書に十分な時間を費やすこともできますし、全国各地から集まった学生が互いに切磋琢磨することにもなると思います。

そして、その学びと生活を支えるもう１つの基盤として、全国各地で活躍されている諸先輩や同窓会の活動と「在学生との懇話会」や「模擬面接試験体験会」をはじめとする種々の支援も貴重で有り難いことだと思います。

もう一方で、1960年に４年制大学に移行して以来、当初からの初等教育学科（→学校教育学科18年度改組）、国文学科に加えて、英文学科、社会学科（→地域社会学科18年度改組）、比較文化学科、国際教育学科の新設・拡充、大学院修士課程の新設、中国・アメリカ・北欧諸国の大学との交換留学や語学研修プログラムの開始など教育体制の充実が図られてきました。この拡充とそれを支えてきた学訓「菁莪育才」を踏まえ、さらなる発展を期して最善を尽くしてまいる所存です。

本学は郊外型の小規模大学で、学住接近も際立っていますから、学生同士の豊かなつながり・交流はもちろん、学生と教職員との関係も〈顔の見える関係〉として展開しています。学生と教員が例えば人生や教養を語り合う機会も豊かでしょう。そうした豊かな環境の下、学生さんたちには、キャンパス・ライフをエンジョイしつつ、仲間や教職員と関わり切磋琢磨し、自信と誇りを育み成長していくことを期待しております。そして、同窓会と諸先輩には引き続き学生たちを見守り支援してくださることを切に願い期待しております。

平成30年度都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部　（単位：円）

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備考
入会金	4,085,000	0	4,085,000	4,085,000	817人×5,000円＝4,085,000円
終身会費	8,170,000	0	8,170,000	8,170,000	817人×10,000円＝8,170,000円
繰越金	5,952,275	0	5,952,275	5,952,275	平成29年度繰越金
雑入	60,000		60,000	39,110	理事会・総会懇親会御祝儀　預金利息
収入合計	18,267,275	0	18,267,275	18,246,385	

◆支出の部　（単位：円）

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	支出済額	【見込額】　備考
事業費	8,570,000	300,000	8,870,000	8,036,210	
会報発行費	3,200,000	0	3,200,000	2,747,466	同窓会報第37号（平成30年度発行）
支部助成金	3,650,000	0	3,650,000	3,600,000	東京　神奈川　山梨　長野　静岡　愛知 720,000円（@120,000円×6支部） 北海道　富山　石川　兵庫 440,000円（@110,000円×4支部） 岩手　宮城　茨城　埼玉　千葉　福井　岐阜　大阪　広島　徳島 1,000,000円（@100,000円×10支部） 山形　群馬　三重　京都　島根　岡山　愛媛　長崎　鹿児島　沖縄 900,000円（@90,000円×10支部） 滋賀　和歌山　鳥取　熊本　宮崎 400,000円（@80,000円×5支部） 奈良　高知 140,000円（@70,000円×2支部）
支部設立準備金	300,000	0	300,000	150,000	青森県支部
新入学祝費	600,000	0	600,000	579,744	平成31年度入学祝　新入生記念品
支部旗作成費	120,000	0	120,000	54,000	青森県支部設立
教員採用試験学習会費	450,000	0	450,000	355,000	宮城　兵庫　山梨　千葉　東京　群馬　富山　石川
被災地支援活動費	250,000	300,000	550,000	550,000	被災地支援金（宮城　熊本　広島　岡山　愛媛）
会議費	2,000,000	0	2,000,000	1,685,380	
総会費	0	0	0	0	
理事会費等	2,000,000	0	2,000,000	1,685,380	
同窓会本部費	2,560,000	0	2,560,000	1,702,320	
事務費	250,000	0	250,000	174,704	
運営費	1,850,000	0	1,850,000	1,267,616	賃金負担金700,000円含む
慶弔費	340,000	0	340,000	140,000	入学式・卒業式祝い生花ほか
本部役員活動費	120,000	0	120,000	120,000	平成30年度役員報酬
積立金	4,500,000	0	4,500,000	4,500,000	大学創立記念事業基金
予備費	637,275	△300,000	337,275	0	
支出合計	18,267,275	0	18,267,275	15,923,910	

（収入済額）　（支出額）　（収入・支出差引残高額）
¥18,246,385　－　15,923,910　＝　2,322,475

◎H30年度　基金積立及び取崩状況

◆財政調整基金積立金額	0円
◆大学創立記念事業基金積立金額	4,500,000円
積立金合計額	4,500,000円
◆財政調整基金取崩金額	0円
◆大学創立記念事業基金取崩金額	0円
取崩金合計額	0円

H30年度末　基金の内訳	
財政調整基金	5,646,879円
大学創立記念事業基金	28,522,908円
計	34,169,787円

和やかに、温かく

神奈川県支部総会の報告

前支部長　**松下登志男**

2019年７月14日に相模原教育会館を会場に支部総会が開かれました。第１部総会、第２部記念コンサート、第３部懇親会の３部構成で、充実した１日となりました。

総会は72名の会員参加があり、大学から阿毛久芳副学長、柏木精一同窓会長にご臨席を賜り、祝辞をいただきました。活動経過報告・決算報告・支部役員選出・当面の活動方針について承認され、総会は無事終了しました。

第２部の記念コンサートは会場を音響の良い市立あじさい会館のホールに移して行いました。都留文科大学合唱団をお招きしての待望の演奏会です。10年連続全国大会金賞受賞の実績を誇る合唱団の美しいハーモニーは私たちを魅了し、心に残るものとなりました。学期末で成績事務に追われる現職会員が約20名、コンサートだけは是非聴きたいと駆けつけてくれました。

日本一の合唱団の来演ということで、市内の合唱サークルの方や少年少女合唱団などにも声をかけさせていただき、総勢約250人の来場で素晴らしい演奏会にすることができました。

前回の総会には大学のマンドリンクラブに来ていただきましたがその時も大変好評で、「次はぜひ合唱団を」との声があり、それが実現できて本当に良かったと思います。合唱団の皆さんには11年連続金賞を目指して県大会・関東大会があり、大変忙しい中で快く日程を設定していただき、心から感謝しています。後日、全国大会で金賞、文部科学大臣賞を獲得されたことを伺い、相模原市の同窓会「飛翔の会」で披露し、みんなで大きな拍手をして喜び合いました。

コンサートは入場無料で公開しました。入場者に合唱団の活動費カンパをお願いしたところ、合唱の素晴らしさに感動された方々から合計で16万円余の寄付をいただくことができ、募金箱ごと合唱団にプレゼントしました。

合唱団の皆さんの礼儀正しくきびきびした行動力も好評でした。

第３部は会場を教育会館に戻し、おいしい料理をいただきながら交流が図られました。懐かしい都留での下宿生活の思い出や仲間達のこと、そして今の仕事や趣味から病気や年金のことまで、話題に事欠かず大いに盛り上がりました。あっという間に予定の時間をオーバーし、２年後の再会を約束して閉会となりました。

この１日を通して終始一貫していたことは、参加された方々が和やかで、それぞれに満足した笑顔に満ちていたことです。同窓と言うことの共通点で皆が優しい顔になることが不思議なくらい温かく、楽しく嬉しい集いとなりました。

今回の総会で新しい役員が決まりました。

支部長	山田	節朗（相模原市）
副支部長	大石	久宜（横浜市）
	荒川	省子（川崎市）
	藤井	克憲（大和市）
事務局長	大村	和明（相模原市）
事務局次長	田中	秀樹（相模原市）

同窓生支援による模擬面接試験体験会を開催しました

令和元年５月11日（土）、教員を志望する学生を対象に、教員採用試験２次試験の対策として、全国各地から28名の同窓生を講師としてお招きし、『模擬面接試験体験会』を開催しました。体験会には104名の学生が参加し、同窓生から様々なご指導をいただきました。

第１部は、代表学生が集団面接、集団討論、模擬授業を公開で行い、面接官役の講師から、きめ細かなご指導をいただきました。代表学生は自主的に志願した熱意のある学生でした。本試験を想定した内容を実践することで、弱点を見出し、改善することで更に力をつけたことでしょう。また、見学した多くの学生から「実践内容を客観的に見ることで、自分に不足しているところを具体的に知ることができた。」等の感想が寄せられ、今後の取り組みに繋がる良い刺激を受けたようです。

第２部は、受験地ごとに分かれ各地の現況に応じたアドバイスや集団での面接、討論等の実践指導をしていただきました。

学生にとって、同窓生の先輩方と繋がる貴重な機会となり、その絆や伝統を強く感じたことと思います。ご協力いただきました同窓会並びに同窓生の皆様には、この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。お忙しいところ、誠にありがとうございました。

この会には、卒業生で教員採用試験の受験を予定している方も参加できますので、参加希望の方は、電話またはメールにてキャリア支援センターへお問い合わせください。また、この他にもキャリア支援センターで開催している、各種講座（教員・企業・公務員）に参加することもできます。アドバイザーとの面談、面接練習、エントリーシートや論文の添削、既卒者向け求人情報の閲覧など幅広く支援しておりますので、就職活動中の卒業生もキャリア支援センターをご利用ください。

第１部（集団討論）

第２部（静岡県）

キャリアサポーター制度にご協力ください

キャリアサポーター制度とは、在学生の就職支援のために自らの体験に基づく助言や情報提供及び個別相談などを行っていただく制度です。業界や企業等の情報を得るには、ホームページ等では分かりにくい企業の内容、雰囲気など、実情を知る卒業生からお話を伺うことが重要となります。後輩達の就職活動を充実させるため、キャリアサポーターの登録をお願いいたします。ご協力いただける方は、都留文科大学ホームページ　同窓会の「卒業生登録内容変更フォーム」よりご登録いただくか、キャリア支援センターへ電話またはメールにてお知らせください。

キャリア支援センター
電話：0554-43-4341　FAX：0554-43-4383
E-mail：s-shoku@tsuru.ac.jp

都留の町並み（名所・風景）

八朔屋台展示庫

八朔祭（屋台巡行）

八朔祭（大名行列）

都留市まちづくり交流センター・市立図書館

城山（勝山城跡）の桜

都留市エコハウス

鹿留発電所の桜

田原の滝

川茂堰堤

高川山

リニア中央新幹線実験線

道の駅つる

氏名・所等変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAXでお願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担でお願いします。

1　ホームページ

⑴ホームページより［卒業生の方へ］→［同窓会］→［同窓会氏名・住所等変更届］にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。

都留文科大学ホームページ
URL：**http:www.tsuru.ac.jp**

⑵ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。

パスワード：tbdh2206
（半角英数）※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2　E-mail にて送信

E-mail：dousokai@tsuru.ac.jp

3　FAX・郵送

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1　都留文科大学同窓会 宛
TEL 0554-43-4341　内線206
FAX 0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名（フリガナ）／旧姓 卒業年・学科 生年月日	現住所／電話番号 勤務先名 勤務先住所／電話番号 勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありましたらご連絡ください。

☆同窓会ブログも平成24年11月から発足しておりますのでご覧ください。

掲載は本学ホームページより［卒業生の方へ］→［同窓会］→［同窓会ブログ］をご参照ください。